

# 市民アンケート調査結果

(速報値集計)

平成 27 年 8 月

岐阜県高山市

# 目 次

1	調査概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査の実施方法	1
(3)	その他	1
2	結婚・出産に関する調査結果	2
(1)	回答者の属性	2
(2)	結婚について【独身の方が回答】	5
(3)	出産について	7
(4)	子育てについて	10
(5)	ワーク・ライフ・バランスについて	12
(6)	少子化について	15
3	地方移住に関する調査結果	18
(1)	回答者の属性	18
(2)	Iターンの状況	21
(3)	Uターンの状況	24
(4)	仕事・住居の見つけ方	26
(5)	地域・暮らしについて	29
(6)	移住者増加に向けて（自由記述より抜粋）	30
4	高校生アンケート調査結果	31
(1)	回答者の属性	31
(2)	就職希望者の進路について【就職希望者】	33
(3)	進学希望者の進路について【進学希望者】	34
(4)	仕事や働き方について	37
(5)	地域や暮らしについて	41

# 1. 調査概要

## (1) 調査目的

人口ビジョン、総合戦略策定に向けて、「結婚・出産・子育て」「地方移住」「高校生における地元就職意向」に関する市民意識を把握するために実施した。

## (2) 調査の実施方法

### 結婚・出産・子育てに関する調査概要

- ・調査対象者：満20歳以上～45歳未満の市民2,000名
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査実施方法：郵送による配布・回収
- ・実施期間：2015年6月15日～7月3日
- ・回収数及び回収率：689件（うち無回答1件）34.5%

### 地方移住に関する調査

- ・調査対象者：岐阜県外から本市に3年以内に移住してきた市民1,000名
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査実施方法：郵送による配布・回収
- ・実施期間：2015年7月1日～7月17日
- ・回収数及び回収率：314件（うち無回答1件）31.4%

### 高校、大学等卒業後の地元就職の意向や進路希望に関する調査

- ・調査対象者：飛騨地域の高校に通う本市在住の高校3年生
- ・調査実施方法：飛騨地域の高校における配布・回収
- ・実施期間：2015年7月下旬
- ・回収数：788件

## (3) その他

- ・小数点第2位を四捨五入しているため、合計の数値が100%にならない場合がある。
- ・本レポートの集計結果は、速報値である。

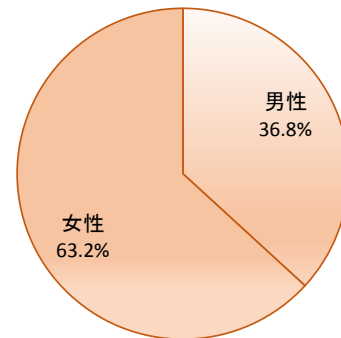
## 2. 結婚・出産に関する調査結果

### (1) 回答者の属性

- 回答者は、約6割が女性、35歳～44歳で半数以上を占めている。
- 半数が「常勤（正規職員等）」で就労しており、次いで「パート・アルバイト」となっている。
- 回答者の67%に配偶者がいる。配偶者の6割は「常勤（正規職員等）」として就労している。

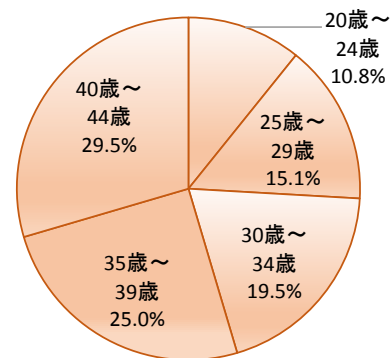
図表 1 性別

	人数	割合(%)
男性	253	36.8
女性	434	63.2
合計	687	100.0



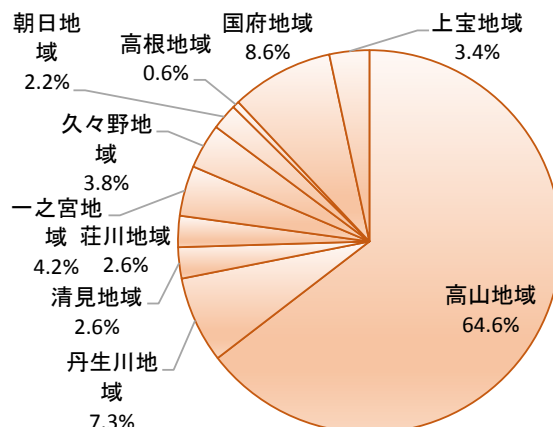
図表 2 年代

	人数	割合(%)
20歳～24歳	74	10.8
25歳～29歳	104	15.1
30歳～34歳	134	19.5
35歳～39歳	172	25.0
40歳～44歳	203	29.5
合計	687	100.0



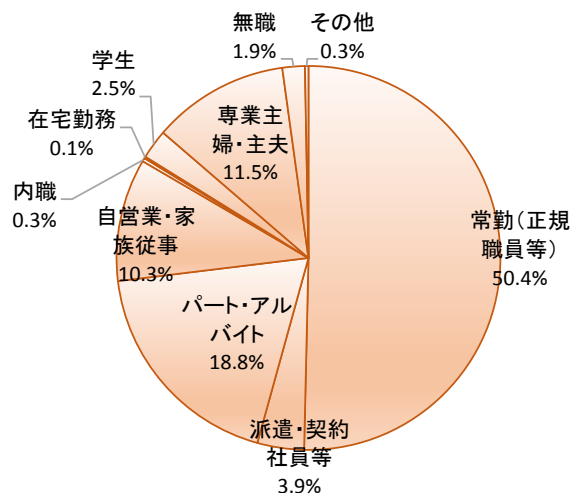
図表 3 居住地域

	人数	割合(%)
高山地域	441	64.6
丹生川地域	50	7.3
清見地域	18	2.6
荘川地域	18	2.6
一之宮地域	29	4.2
久々野地域	26	3.8
朝日地域	15	2.2
高根地域	4	0.6
国府地域	59	8.6
上宝地域	23	3.4
合計	683	100.0



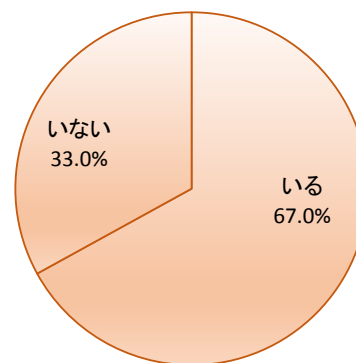
図表 4 就業形態

	人数	割合(%)
常勤(正規職員等)	346	50.4
派遣・契約社員等	27	3.9
パート・アルバイト	129	18.8
自営業・家族従事	71	10.3
内職	2	0.3
在宅勤務	1	0.1
学生	17	2.5
専業主婦・主夫	79	11.5
無職	13	1.9
その他	2	0.3
合計	687	100.0



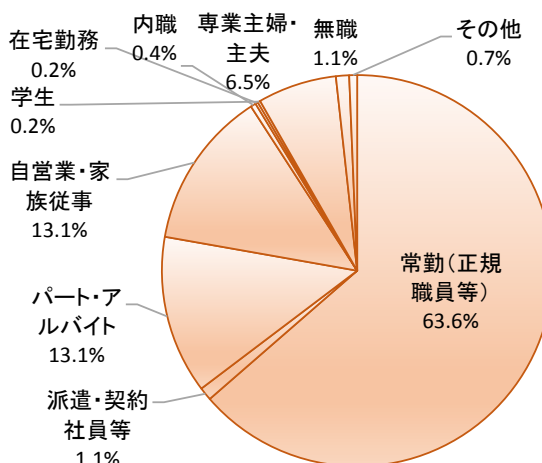
図表 5 配偶者有無

	人数	割合(%)
いる	459	67.0
いない	226	33.0
合計	685	100.0



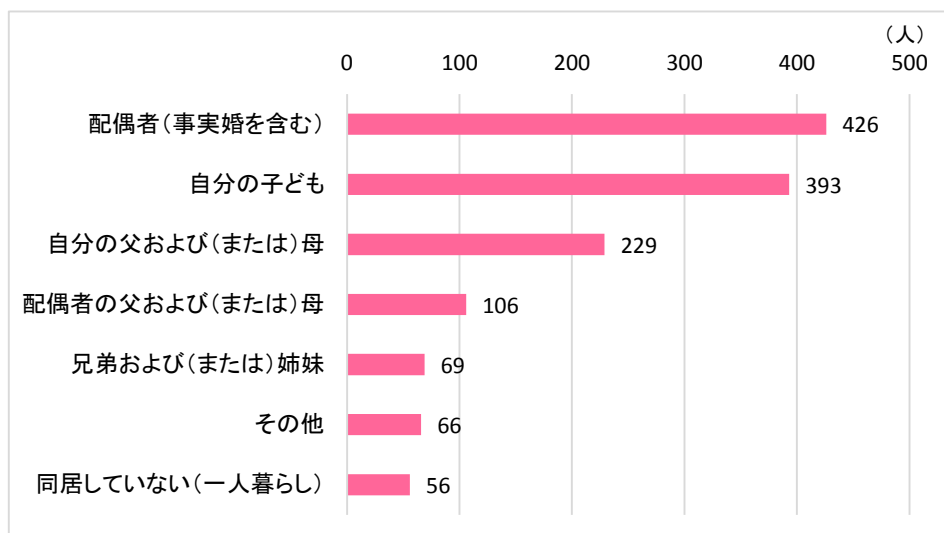
図表 6 配偶者の就業形態

	人数	割合(%)
常勤(正規職員等)	292	63.6
派遣・契約社員等	5	1.1
パート・アルバイト	60	13.1
自営業・家族従事	60	13.1
内職	2	0.4
在宅勤務	1	0.2
学生	1	0.2
専業主婦・主夫	30	6.5
無職	5	1.1
その他	3	0.7
合計	459	100.0

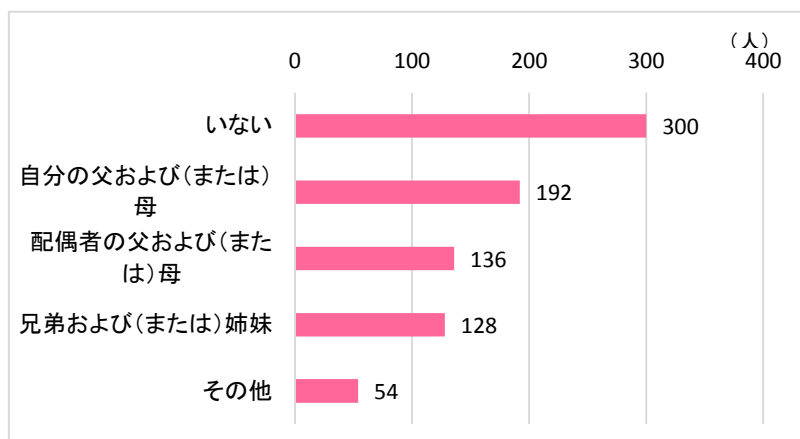


- 一緒に暮らしている人は、「配偶者」、「自分の子ども」の順となっている。
- 近居で生活している家族、親戚は、「いない」が最多、次いで「自分の父および（または）母」となっている。

図表 7 一緒に暮らしている人【複数回答】



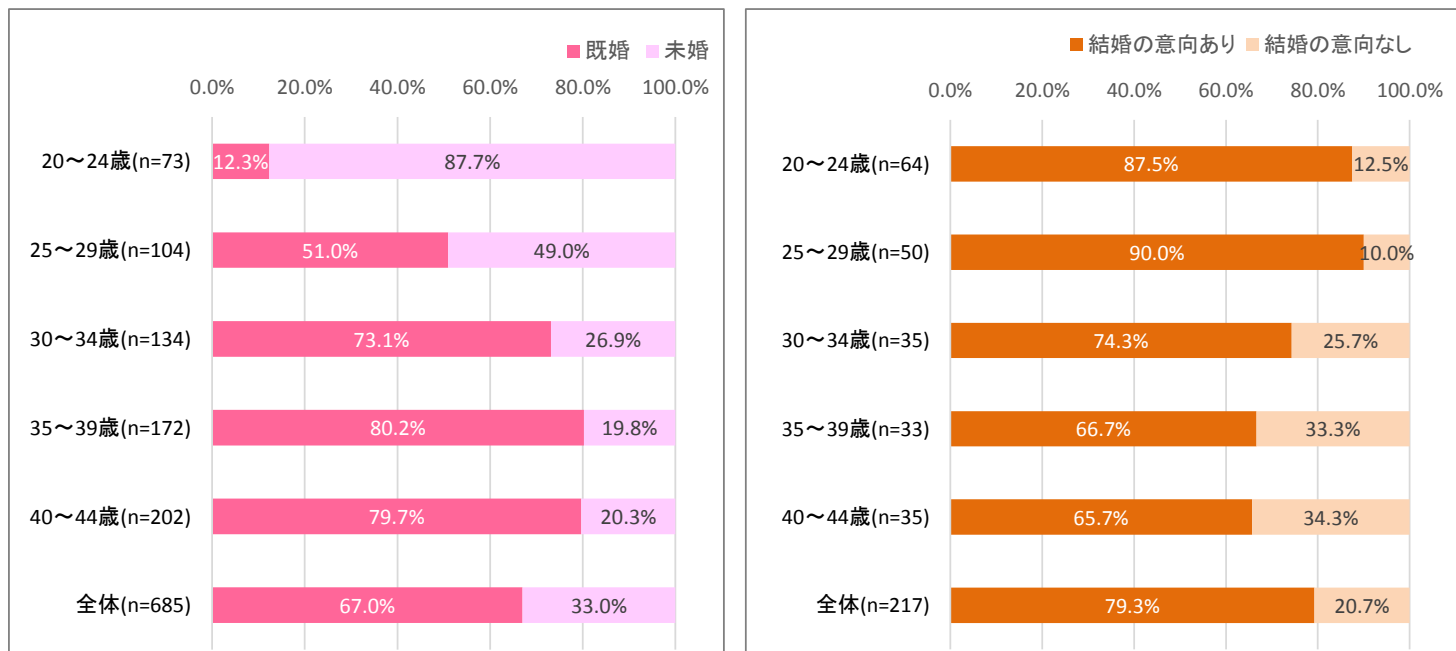
図表 8 近居の家族【複数回答】



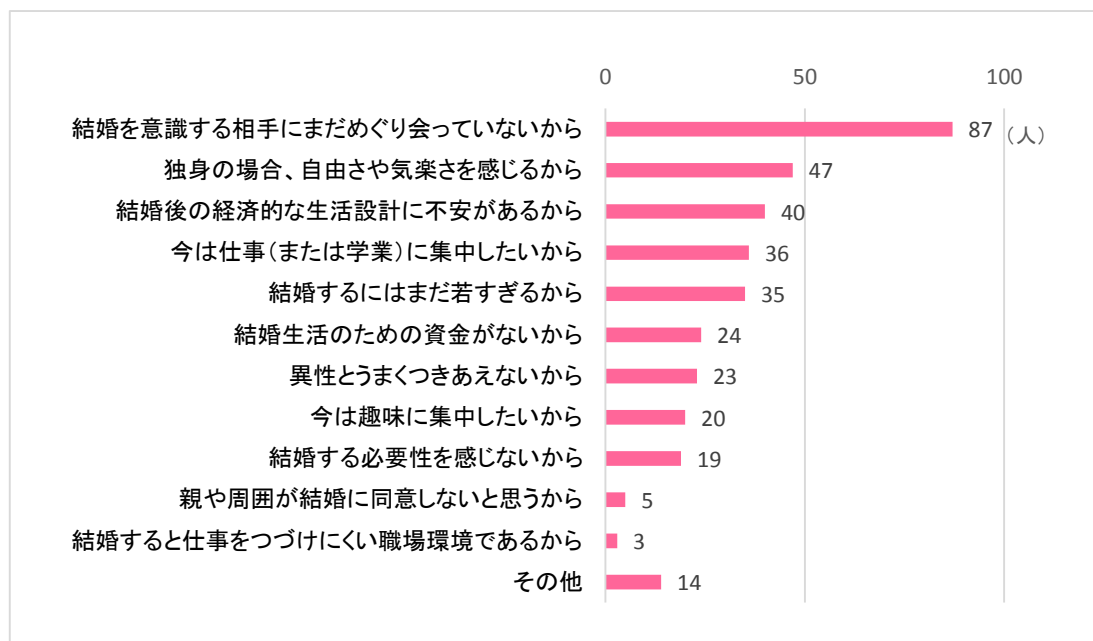
## (2) 結婚について【独身の方が回答】

- 独身者の約8割が、「結婚するつもりがある」と回答している。
- 現在独身でいる理由としては、「結婚を意識する相手にめぐり会っていないから」が最も多く、次いで「独身の場合、自由さや気楽さを感じるから」、「結婚後の経済的な生活設計に不安があるから」となっている。
- 結婚希望者が求める支援策として、「出会いの場を提供すること」が21.2%で最も多く、次いで「結婚や住宅に対する資金貸与や補助」、「子育て支援の充実」となっている。

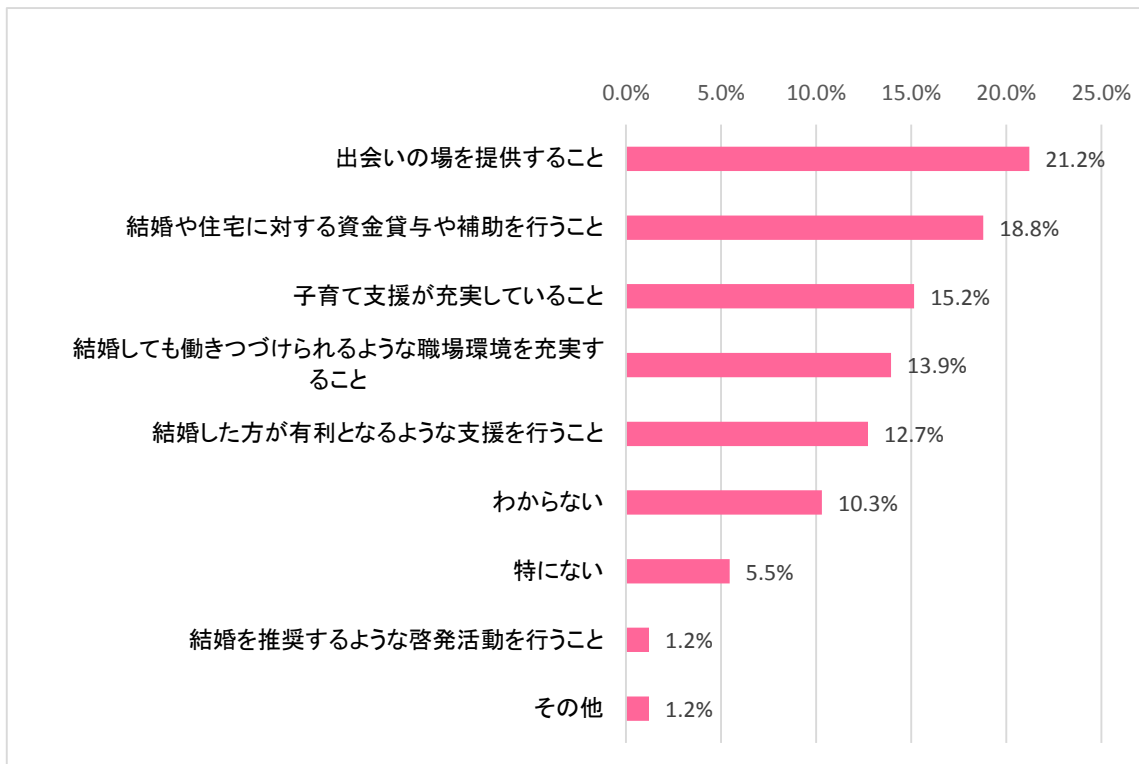
図表 9 年齢別結婚の状況と結婚意向



図表 10 独身でいる理由【複数回答】 ※結婚希望者 172 名の回答



図表 11 必要な結婚支援策※結婚希望者 172 名の回答

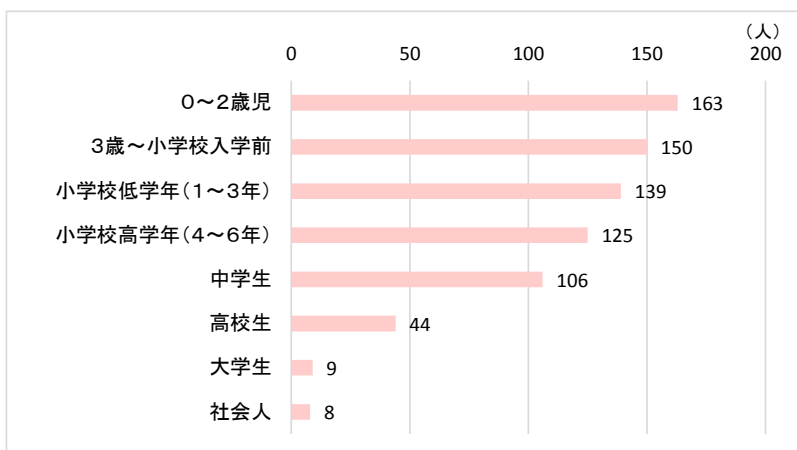
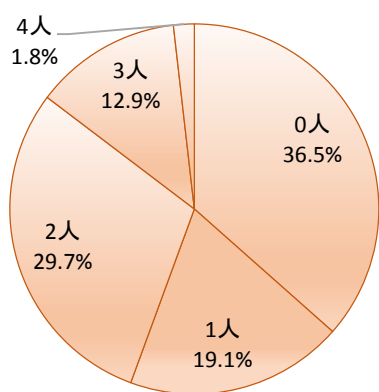




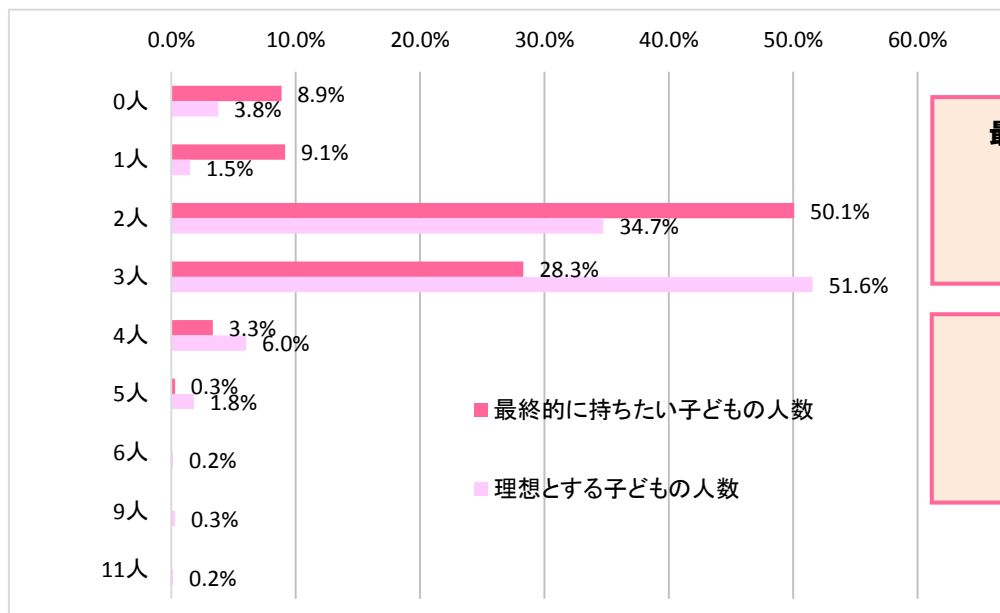
### (3) 出産について

- 子どもの人数は「0人（いない）」が36.5%であった。いる場合には、「2人」が最多で、次いで「1人」、「3人」となっている。
- 最終的に持ちたい子どもの人数の平均は「2.09人」、理想とする子どもの人数の平均は「2.64人」で、理想と現実に差が生じていることがわかる。
- 性別でみると、最終的に持ちたい人数、理想の人数とも女性の方が高い傾向がある。一方男性は、「0人」が女性を上回っており、男女で差異があることがわかる。

図表 12 子どもの人数と年齢（子どもがいる場合）



図表 13 最終的に持ちたい子どもの人数と理想とする人数



**最終的に持ちたい子どもの人数**  
 (回答者数=689人)  
**平均：2.09人**

**理想とする子どもの人数**  
 (回答者数=665人)  
**平均：2.64人**

【性別 最終的に持ちたい人数と理想とする人数】

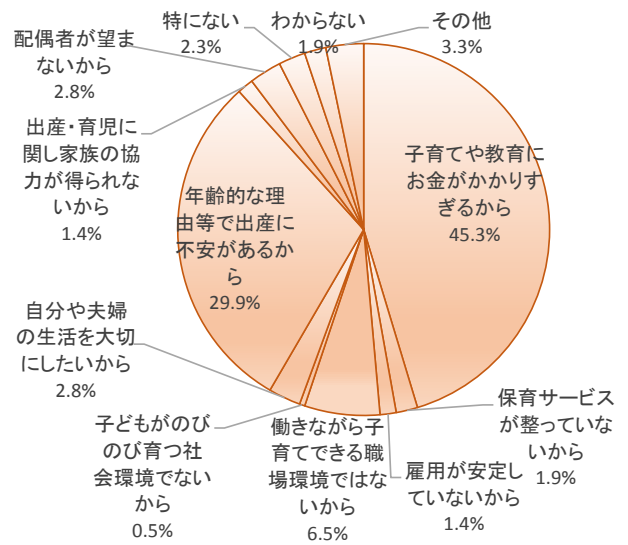
	男性	女性
0人	13.8%	5.8%
1人	9.5%	9.0%
2人	46.2%	52.3%
3人	25.7%	30.0%
4人	4.0%	3.0%
5人	0.8%	0.0%
合計	100.0%	100.0%
回答者数	253	434.0

	男性	女性
0人	5.4%	2.8%
1人	2.9%	0.7%
2人	36.4%	33.9%
3人	44.6%	55.5%
4人	6.6%	5.7%
5人	2.5%	1.4%
6人	0.4%	0.0%
9人	0.8%	0.0%
11人	0.4%	0.0%
合計	100.0%	100.0%
回答者数	242	422

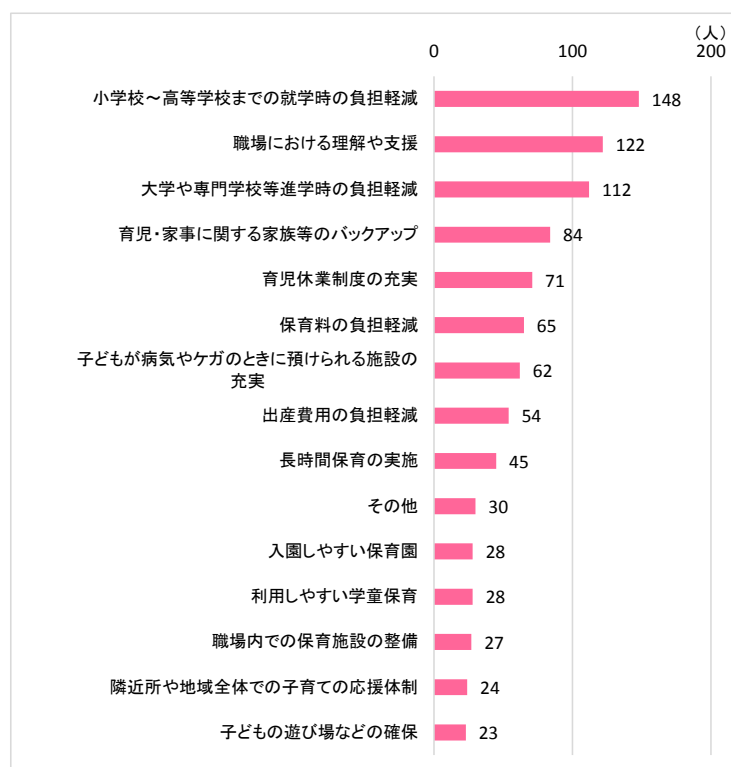
- 最終的に持ちたい人数が理想を下回っている場合、その理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が45.3%となっている。
- 理想の人数に近づくための条件として、「小学校～高等学校までの就学時の負担軽減」が最多、次いで「職場における理解や支援」、「大学や専門学校等進学時の負担軽減」となっている。

図表 14 理想より最終的に持ちたい子どもの人数が少ない理由【少ないと回答した方】

	人数	割合(%)
子育てや教育にお金がかかりすぎるから	97	45.3
保育サービスが整っていないから	4	1.9
雇用が安定していないから	3	1.4
働きながら子育てできる職場環境ではないから	14	6.5
子どもがのびのび育つ社会環境でないから	1	0.5
自分や夫婦の生活を大切にしたいから	6	2.8
年齢的な理由等で出産に不安があるから	64	29.9
出産・育児に関し家族の協力が得られないから	3	1.4
配偶者が望まないから	6	2.8
特にない	5	2.3
わからない	4	1.9
その他	7	3.3
合計	214	100.0



図表 15 理想に近づくために必要な条件【複数回答】

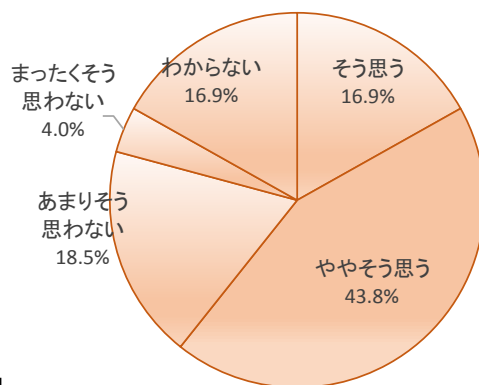


#### (4) 子育てについて

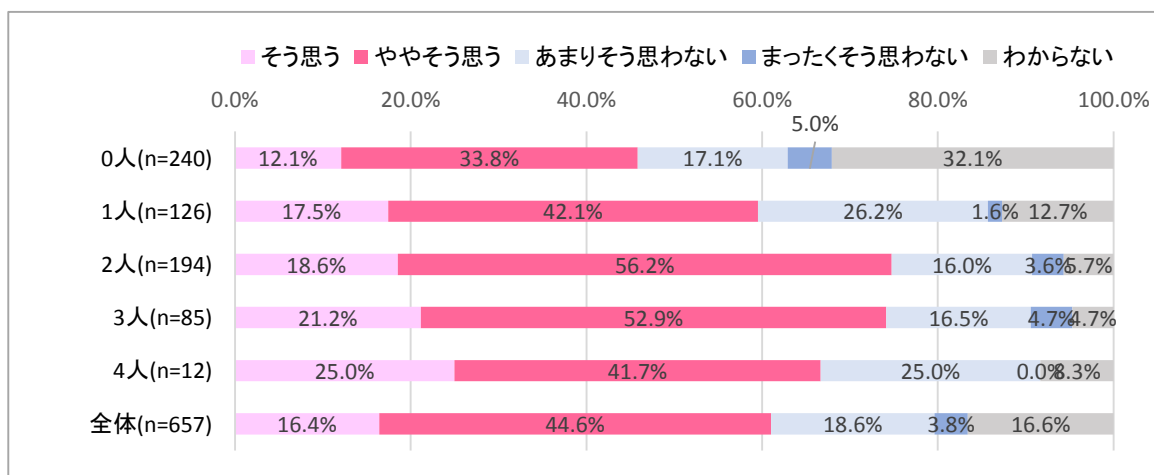
- 高山市の子育てのしやすさについては、全体では「そう思う」、「ややそう思う」が6割を占めている。
- 子どもの人数別に高山市の子育てのしやすさをみると、子どもがいる回答者は6割前後が、「そう思う」、「ややそう思う」としている。子どもがいない回答者は「わからない」が約3割となっている。
- 子育て中の親が働く上での課題としては、「仕事と家事・育児の両立が体力・時間的に難しい」が最多、次いで「子育てに十分な時間をかけることができない」、「子どもの病気など急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない」と続いている。

図表 16 高山市は子どもを生き育てやすいまちか

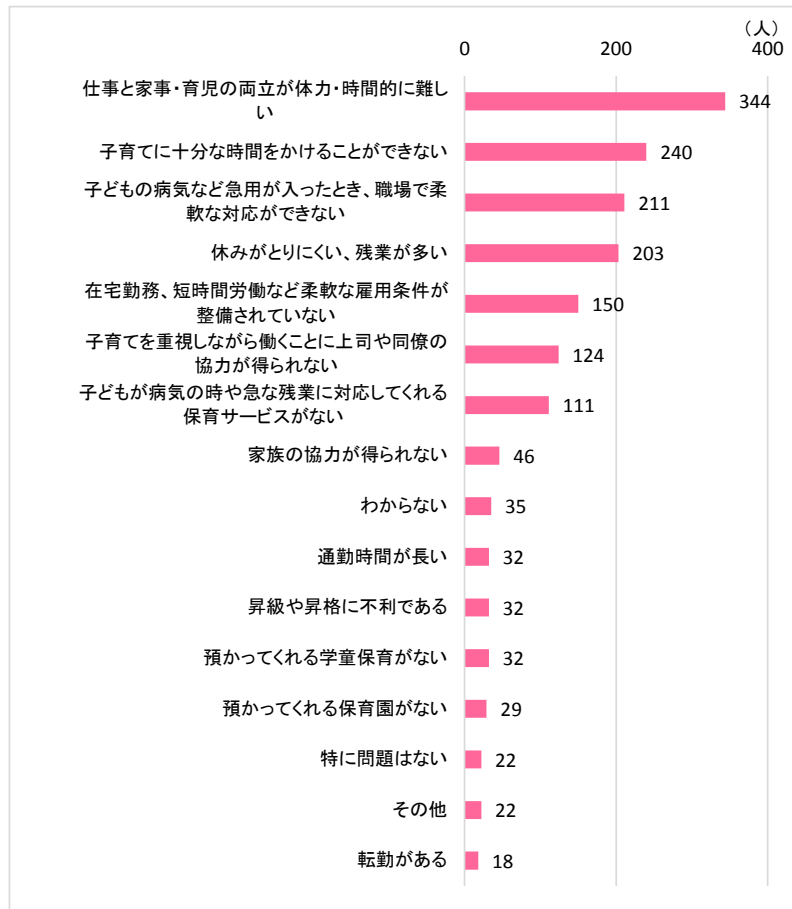
	人数	割合(%)
そう思う	115	16.9
ややそう思う	299	43.8
あまりそう思わない	126	18.5
まったくそう思わない	27	4.0
わからない	115	16.9
合計	682	100.0



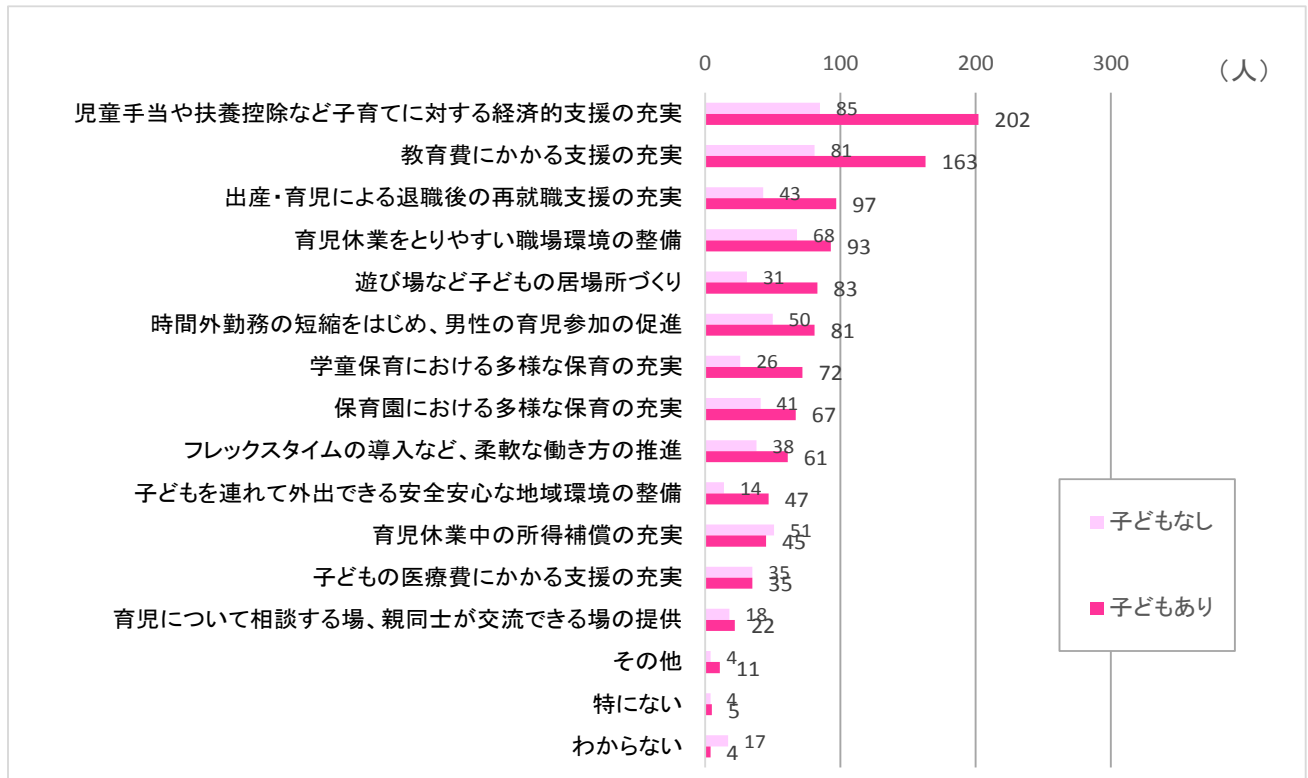
【子どもの人数別】



図表 17 子育て中の親が働く上での課題【複数回答】



図表 18 求めている子育て支援策【複数回答】

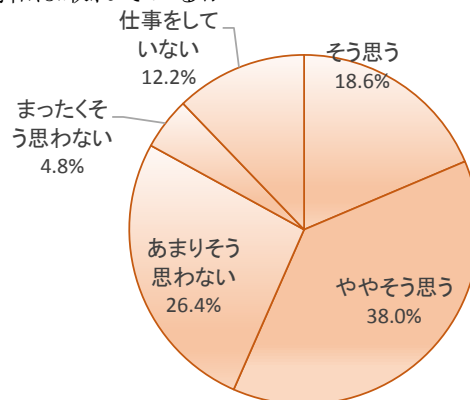


## (5) ワーク・ライフ・バランスについて

- ワーク・ライフ・バランスについては、「取れている」、「やや取れている」が半数以上となっている。
- 自身の職場の子育てしやすさについては、55.4%が「しやすい」、「ややしやすい」と回答している。一方、しやすいとは「まったく思わない」とする回答も約10%近くある。
- 性別で見ると、男性の方が職場について「子育てしにくい環境である」とする回答が多く、「まったくそう思わない」は約15%となっている。
- 子どもの有無で見ると、子どもがいない人の方が「子育てしにくい職場である」と認識していることがわかる。現状、子どもがいなくても、職場の子育て環境に不安を抱えていることがうかがえる。
- 結婚・出産・子育てを機に仕事を辞めた経験がある人は、40.7%に及んでいる。理由としては、「勤務先や仕事の状況から、働き続けるのが難しかったため」が最多である。
- 仕事を辞めた人のうち、「既に働き始めている」は64.7%で、「すぐにでも働きたい」、「いずれ働きたい」は32.9%となっている。

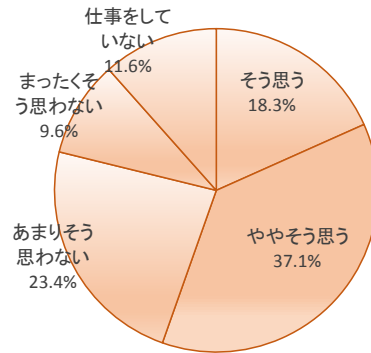
図表 19 仕事と生活の調和は取れているか

	人数	割合(%)
そう思う	127	18.6
ややそう思う	259	38.0
あまりそう思わない	180	26.4
まったくそう思わない	33	4.8
仕事をしていない	83	12.2
合計	682	100.0

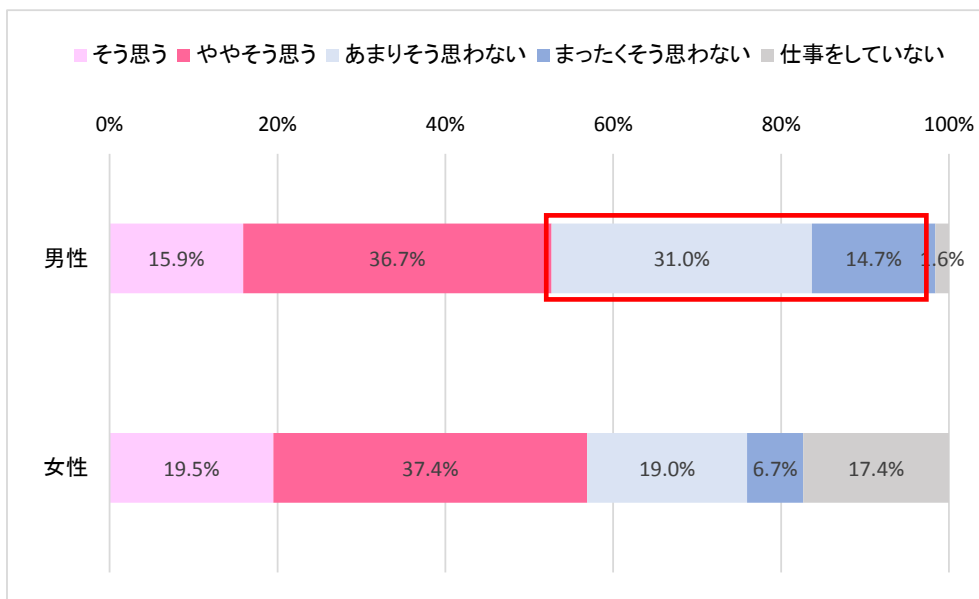


図表 20 あなたの職場は子育てする人（男女問わず）にとって働きやすいか

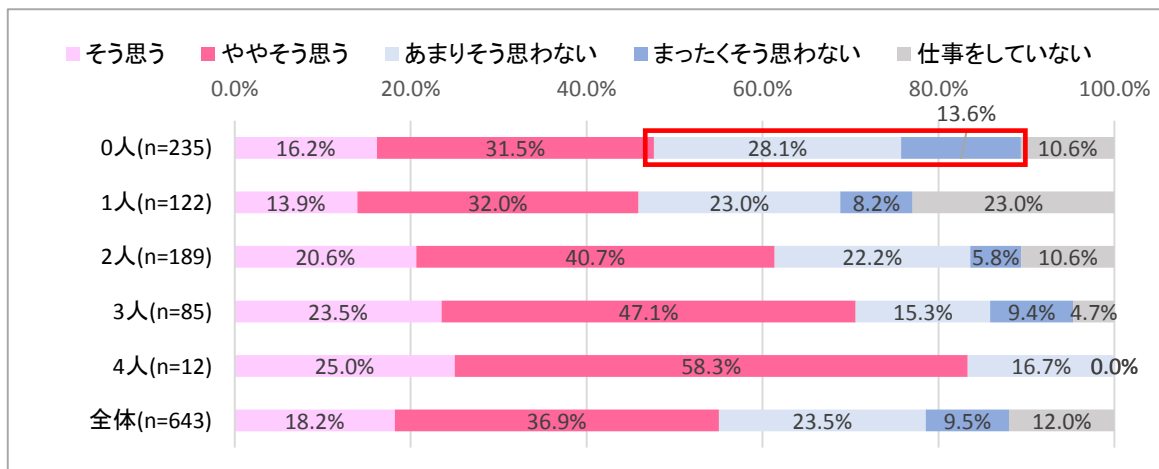
	人数	割合(%)
そう思う	122	18.3
ややそう思う	247	37.1
あまりそう思わない	156	23.4
まったくそう思わない	64	9.6
仕事をしていない	77	11.6
合計	666	100.0



【性別】

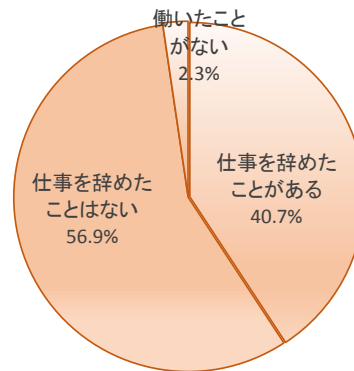


【子どもの有無】

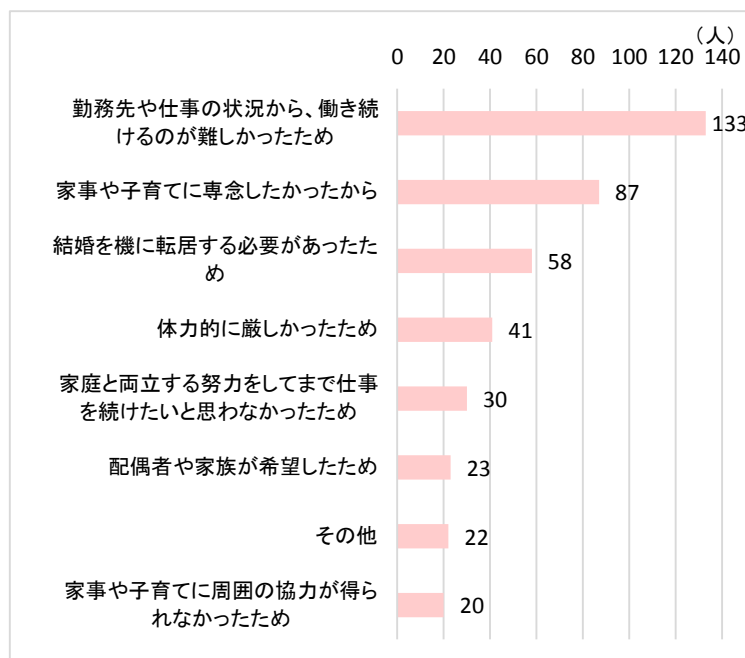


図表 21 結婚・出産・子育てを機に仕事を辞めたか

	人数	割合(%)
仕事を辞めたことがある	262	40.7
仕事を辞めたことはない	366	56.9
働いたことがない	15	2.3
合計	643	100.0

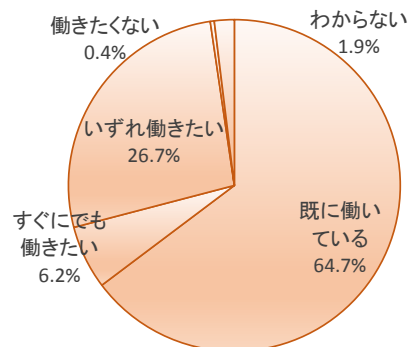


図表 22 仕事を辞めた理由【複数回答】



図表 23 再び働きたいか

	人数	割合(%)
既に働いている	167	64.7
すぐにも働きたい	16	6.2
いずれ働きたい	69	26.7
働きたくない	1	0.4
わからない	5	1.9
合計	258	100.0



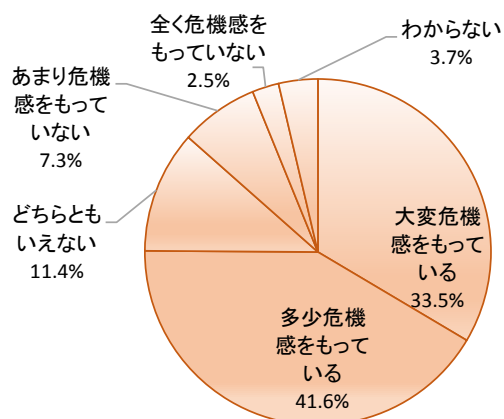


## (6) 少子化について

- 少子化への危機感については、約7割が「大変危機感をもっている」、「多少危機感をもっている」と回答している。
- 人口減少が地域に与える影響としては、「年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響」が54.4%で最も多い。
- 出生率が低い主な原因としては、「出産・子育ては経済的負担が大きいから」、「将来に不安を感じる社会であるから」といった子どもを育てることへの不安感が影響しているとする一方、「子育てよりも仕事や趣味など、他の事柄に生きがいや価値観を見出す人が増えたから」とする回答も多くあげられた。

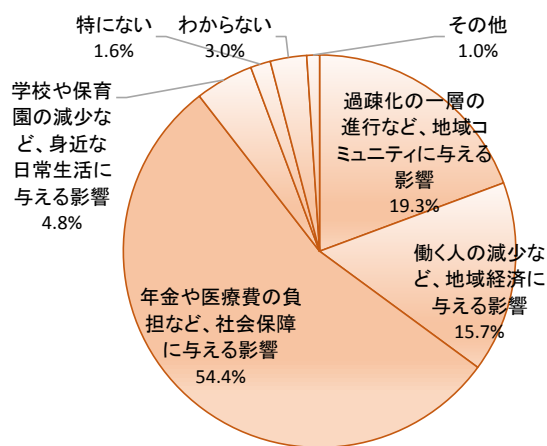
図表 24 少子化傾向への危機感

	人数	割合(%)
大変危機感をもっている	229	33.5
多少危機感をもっている	284	41.6
どちらともいえない	78	11.4
あまり危機感をもっていない	50	7.3
全く危機感をもっていない	17	2.5
わからない	25	3.7
合計	683	100.0

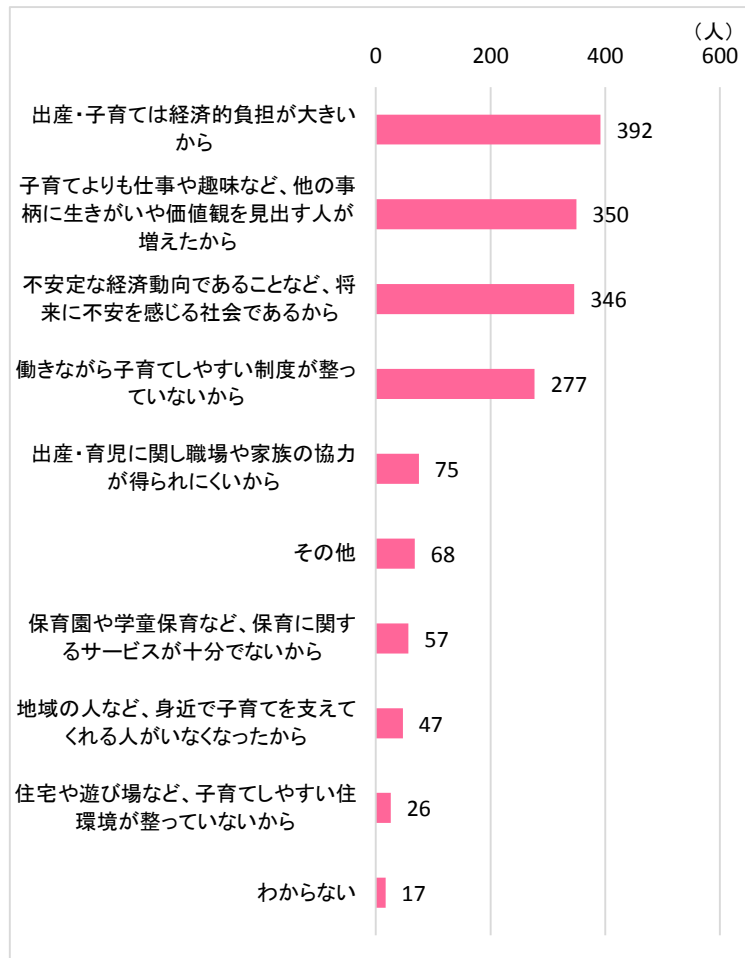


図表 25 人口減少が地域に与える影響

	人数	割合(%)
過疎化の一層の進行など、地域コミュニティに与える影響	129	19.3
働く人の減少など、地域経済に与える影響	105	15.7
年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響	363	54.4
学校や保育園の減少など、身近な日常生活に与える影響	32	4.8
特にない	11	1.6
わからない	20	3.0
その他	7	1.0
合計	667	100.0



図表 26 出生率が低い原因【複数回答】



図表 27 結婚・出産・子育てに関する意見【自由コメント抜粋】

【結婚】

- 若い人が結婚できないのは、収入が少なく、結婚しても家族を養っていけないからでは。高山にもっと収入の良い、やりがいのある職場が増えれば、都会に出た若い人たちも戻ってくるかもしれない。
- 出会いの場を提供されるのはありがたいが、年齢制限に幅があるのも参加しづらい。

【出産】

- 高山でも高度な不妊治療が受けられる体制が整ってほしい。費用補助だけでなく、医療体制があれば、心身に大きな負担がなく諦めずに治療を続けられると思う。(同様の意見が 18 件)
- 今の職場は産休制度がなく、妊娠したら、女性は必然的に仕事を辞めなければならない。

【育児】

- 子どもが安心して遊べる場がない。これだけ広い土地や自然があるのに、遊び場が少ないように思う。(同様の意見が 10 件)
- 仕事の都合上、土曜出勤や夜勤が発生することもある。24 時間、土日や夜間の託児所が整備されるとありがたい。(同様の意見が 4 件)
- 病児保育の手続きが煩雑で、結局仕事を休まなければならなくなった経験がある。
- 高山に夫の転勤で来たため、身近に頼れる人がいない。
- 子ども手当や医療費無料など、高山は子育て支援が充実していると思う。ただ高校や大学進学でもお金がかかるので、長期の支援があると嬉しい。
- 学童保育の定員が少ない、高学年になっても夏休みなど一定期間は利用できるようにしてほしい。
- 夜間でも子どもの対応ができる病院を増やして欲しい。
- 職場の理解がほとんどない。企業や事業所にも、子育て中の社員がいることでのメリットをつくるなどしないと、辞めざるを得ない環境になっている。
- 子育てにお金がかかるので、正社員で働きたいが、休みづらく子どものことを考えるとパートのままで働かざるを得ない状況。
- 出産を機に仕事を辞め、そろそろ再就職したいが、子育てしながら働ける仕事になかなかない。

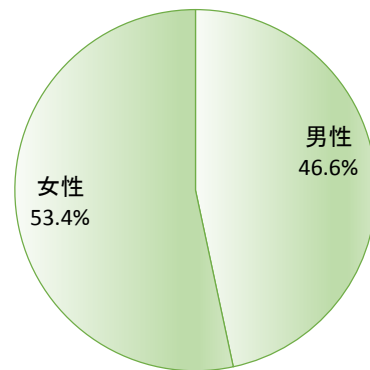
### 3. 地方移住に関する調査結果

#### (1) 回答者の属性

- 回答者の年代は、20～30歳代で約7割を占めている。
- 居住地域は、「高山地域」が最も多く、78.4%となっている。
- 世帯構成は「ひとり暮らし」が最多で25.9%、次いで「夫婦」、「自分と子の二世帯」となっている。
- 就労状況は、約半数が「正社員・正職員」として勤務している。

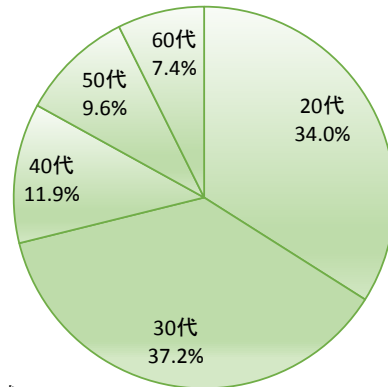
図表 28 性別

	人数	割合(%)
男性	146	46.6
女性	167	53.4
合計	313	100.0



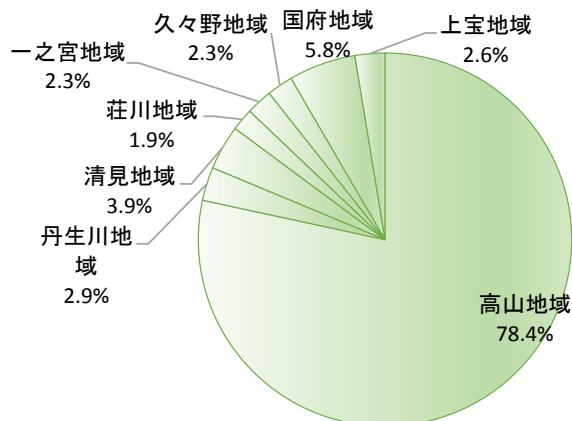
図表 29 年代

	人数	割合(%)
20代	106	34.0
30代	116	37.2
40代	37	11.9
50代	30	9.6
60代	23	7.4
合計	312	100.0



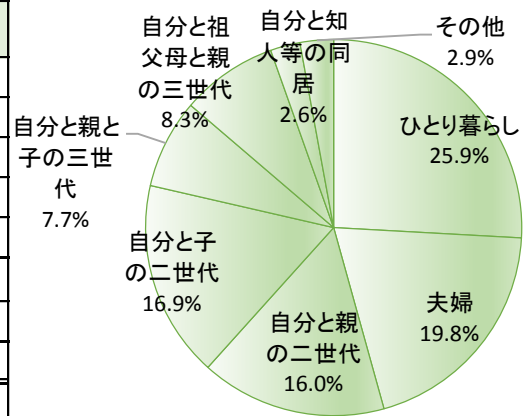
図表 30 居住地域

	人数	割合(%)
高山地域	243	78.4
丹生川地域	9	2.9
清見地域	12	3.9
荘川地域	6	1.9
一之宮地域	7	2.3
久々野地域	7	2.3
国府地域	18	5.8
上宝地域	8	2.6
合計	310	100.0



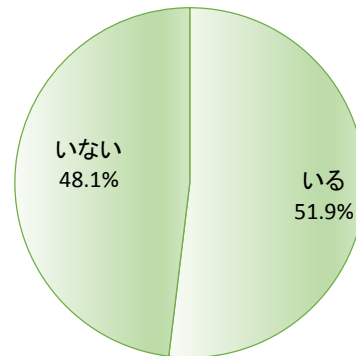
図表 31 世帯構成

	人数	割合(%)
ひとり暮らし	81	25.9
夫婦	62	19.8
自分と親の二世帯	50	16.0
自分と子の二世帯	53	16.9
自分と親と子の三世帯	24	7.7
自分と祖父母と親の三世帯	26	8.3
自分と知人等の同居	8	2.6
その他	9	2.9
合計	313	100.0



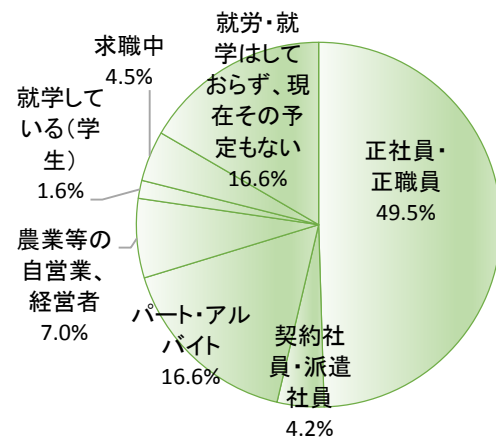
図表 32 配偶者有無

	人数	割合(%)
いる	162	51.9
いない	150	48.1
合計	312	100.0



図表 33 就労状況

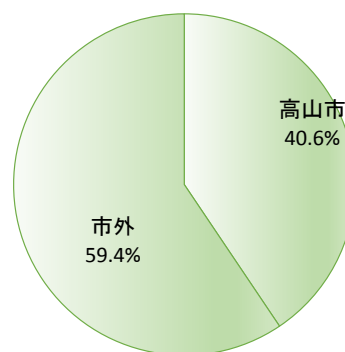
	人数	割合(%)
正社員・正職員	155	49.5
契約社員・派遣社員	13	4.2
パート・アルバイト	52	16.6
農業等の自営業、経営者	22	7.0
就学している(学生)	5	1.6
求職中	14	4.5
就労・就学はしておらず、現在その予定もない	52	16.6
合計	313	100.0



- 回答者を出身地別で見ると、「高山市」が40.6%、「市外」が59.4%となっている。
- 居住経験としては、「高山市外の出身で、転入してきた（Iターン）」が57.5%、「市内出身で、高山市外へ転出してきた後、戻ってきた（Uターン）」が40.2%となっている。

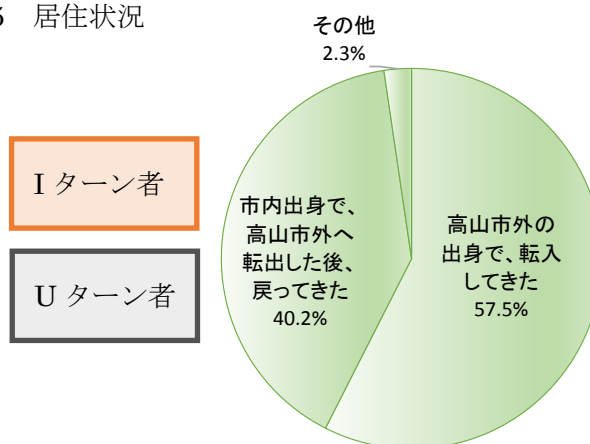
図表 34 出身地

	人数	割合(%)
高山市	127	40.6
市外	186	59.4
合計	313	100.0



図表 35 居住状況

	人数	割合(%)
高山市外の出身で、転入してきた	173	57.5
市内出身で、高山市外へ転出した後、戻ってきた	121	40.2
その他	7	2.3
合計	301	100.0

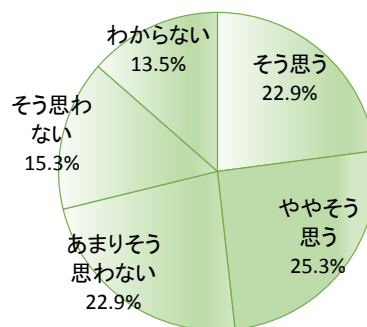


## (2) I ターンの様況

- 高山市に転入する前、魅力的な場所だと思ったかについては、約半数が「そう思う」、「ややそう思う」と回答している。「そう思わない」、「あまりそう思わない」も4割近くとなっている。
- 魅力的な場所かについて、「そう思わない」、「あまりそう思わない」とする回答者の転入のきっかけは、「就職・転職」、「転勤・配属」、「結婚」、「配偶者の転勤・配属」があげられており、自身の意志ではなく転入している場合が多いことがうかがえる。
- 転入のきっかけは、「就職・転職」、「転勤・配属」が約半数となっている。
- 高山市を選んで引っ越してきた「移住」の決め手としては、「豊かな自然や美しい景観に魅力を感じたため」が70%となっている。
- 生活の変化については、「収入」が「とても悪くなった」、「やや悪くなった」が多いものの、「幸福な暮らしの実感」、「生活全般（総合評価）」では「とても良くなった」、「やや良くなった」の割合が多くなっている。

図表 36 転入前、高山市は魅力的な場所だと思ったか

	人数	割合(%)
そう思う	39	22.9
ややそう思う	43	25.3
あまりそう思わない	39	22.9
そう思わない	26	15.3
わからない	23	13.5
合計	170	100.0

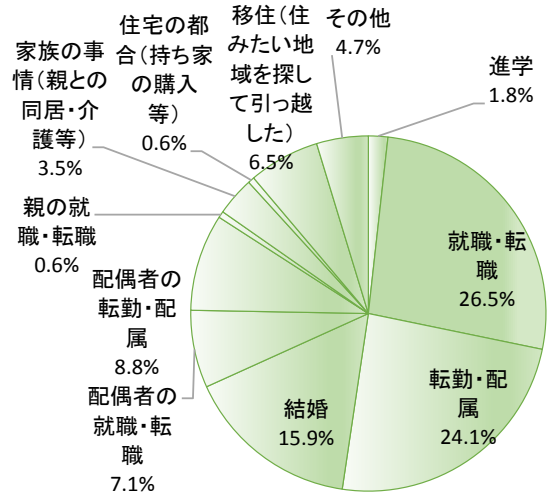


「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した人の転入のきっかけ

	あまりそう思わない	そう思わない
進学	0.0%	0.0%
就職・転職	38.5%	23.1%
転勤・配属	20.5%	30.8%
結婚	20.5%	15.4%
配偶者の就職・転職	2.6%	11.5%
配偶者の転勤・配属	7.7%	15.4%
親の就職・転職	0.0%	0.0%
家族の事情	5.1%	3.8%
住宅の都合	0.0%	0.0%
移住	0.0%	0.0%
その他	5.1%	0.0%
合計	100.0%	100.0%
回答者数	39	26

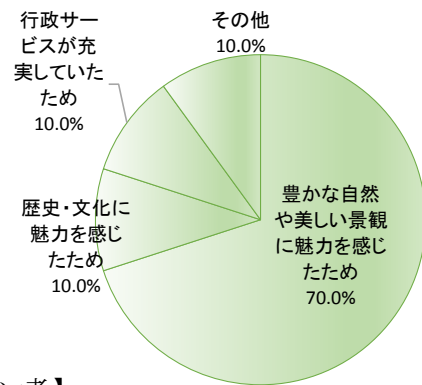
図表 37 転入のきっかけ

	人数	割合(%)
進学	3	1.8
就職・転職	45	26.5
転勤・配属	41	24.1
結婚	27	15.9
配偶者の就職・転職	12	7.1
配偶者の転勤・配属	15	8.8
親の就職・転職	1	0.6
家族の事情(親との同居・介護等)	6	3.5
住宅の都合(持ち家の購入等)	1	0.6
移住(住みたい地域を探して引っ越した)	11	6.5
その他	8	4.7
合計	170	100.0

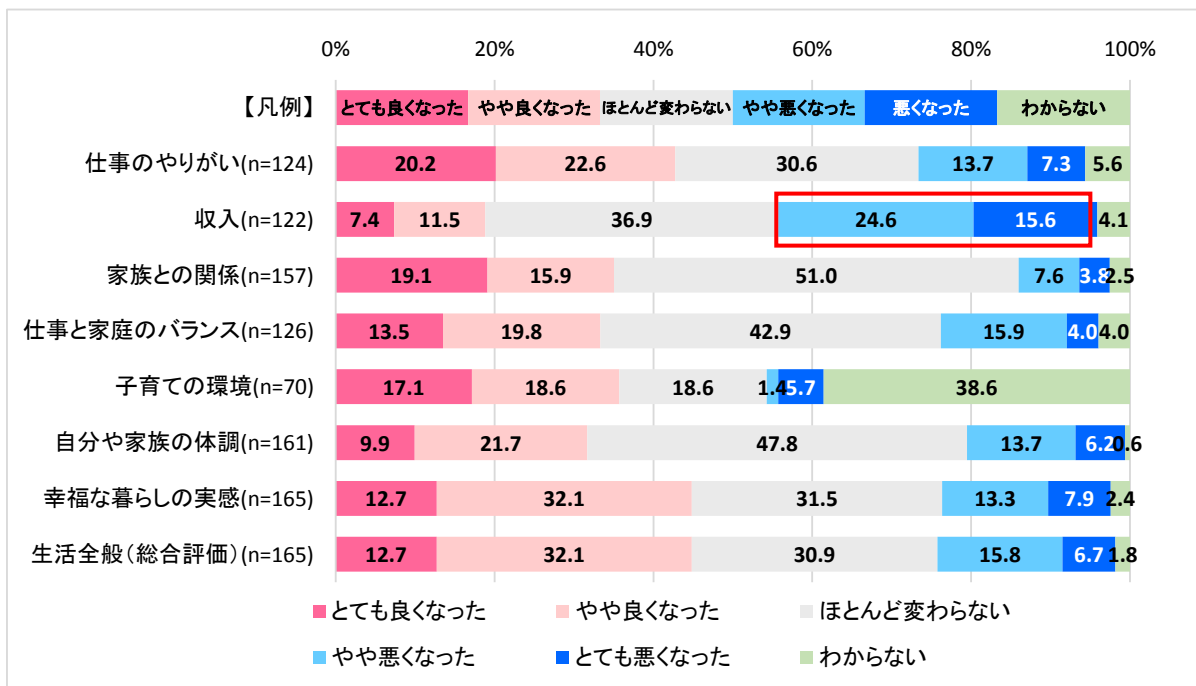


図表 38 移住の決め手

	人数	割合(%)
豊かな自然や美しい景観に魅力を感じたため	7	70.0
歴史・文化に魅力を感じたため	1	10.0
行政サービスが充実していたため	1	10.0
その他	1	10.0
合計	10	100.0



図表 39 生活の変化【I ターン者】





図表 40 転入時にあるとよい支援【自由コメント抜粋】

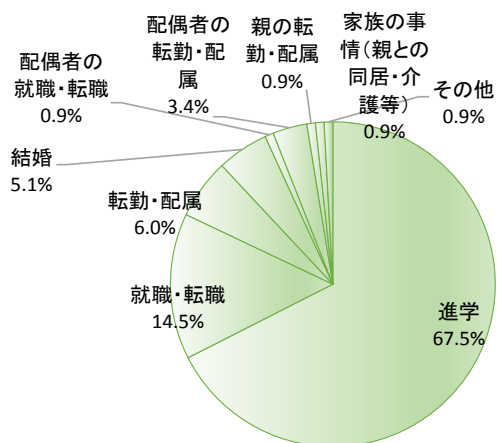
- 生活や住民票など手続きごとではなく、移住者向けの総合的な窓口が役所にあるとよい。
- ひとり暮らしのため、町内会や自治会があるのか、誰が会長なのかなど情報がまったくない。広報くらいしか情報源がない。
- I ターン制度はとても助かったが、当事者 1 人あたりだとさらに助かる。
- 雪国に住んだことがなかったので、雪が降るときの生活情報や除雪道具の貸出があると良い。
- ゴミの分別方法がわかりにくかった。
- I ターン者同士で情報共有などできるコミュニティがあれば教えて欲しい。ないのであればそうしたコミュニティを今後作っていききたい。
- 方言マニュアルのようなものがあると助かる。

### (3) Uターンの状況

- 転出のきっかけは67.5%が「進学」で、転出時の年代も「10代」が73.6%となっていることから進学で一度市外へ転出している状況がうかがえる。
- 戻ってきたきっかけは、「就職・転職」が最多で48.3%となっている。転入時の年代は「20代」が58.7%で最多となっている。
- Uターン時の心境は、55.6%が「高山市で暮らしたかった」と回答している。
- 生活の変化では、「収入」以外の項目では良くなったとする回答が多くみられる。

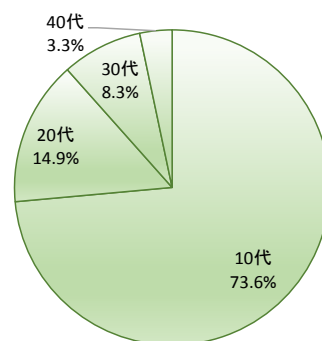
図表 41 転出のきっかけ

	人数	割合(%)
進学	79	67.5
就職・転職	17	14.5
転勤・配属	7	6.0
結婚	6	5.1
配偶者の就職・転職	1	0.9
配偶者の転勤・配属	4	3.4
親の転勤・配属	1	0.9
家族の事情(親との同居・介護等)	1	0.9
その他	1	0.9
合計	117	100.0



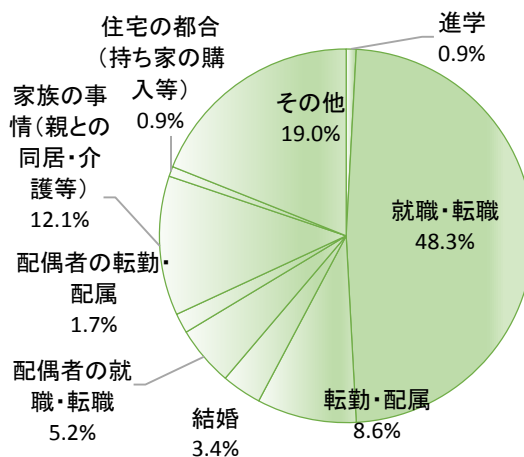
図表 42 転出時の年代

	人数	割合(%)
10代	89	73.6
20代	18	14.9
30代	10	8.3
40代	4	3.3
合計	121	100.0



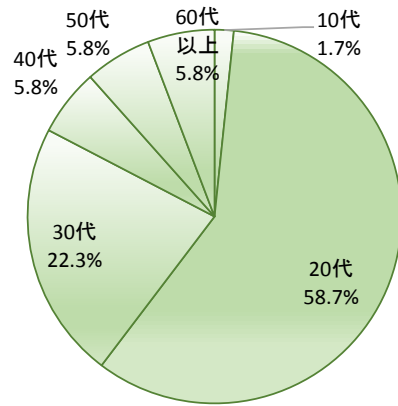
図表 43 転入のきっかけ

	人数	割合(%)
進学	1	0.9
就職・転職	56	48.3
転勤・配属	10	8.6
結婚	4	3.4
配偶者の就職・転職	6	5.2
配偶者の転勤・配属	2	1.7
家族の事情(親との同居・介護等)	14	12.1
住宅の都合(持ち家の購入等)	1	0.9
その他	22	19.0
合計	116	100.0



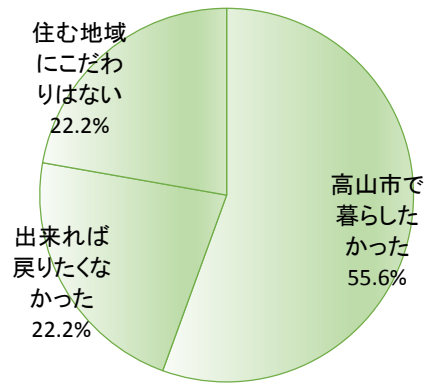
図表 44 転入時の年代

	人数	割合(%)
10代	2	1.7
20代	71	58.7
30代	27	22.3
40代	7	5.8
50代	7	5.8
60代以上	7	5.8
合計	121	100.0

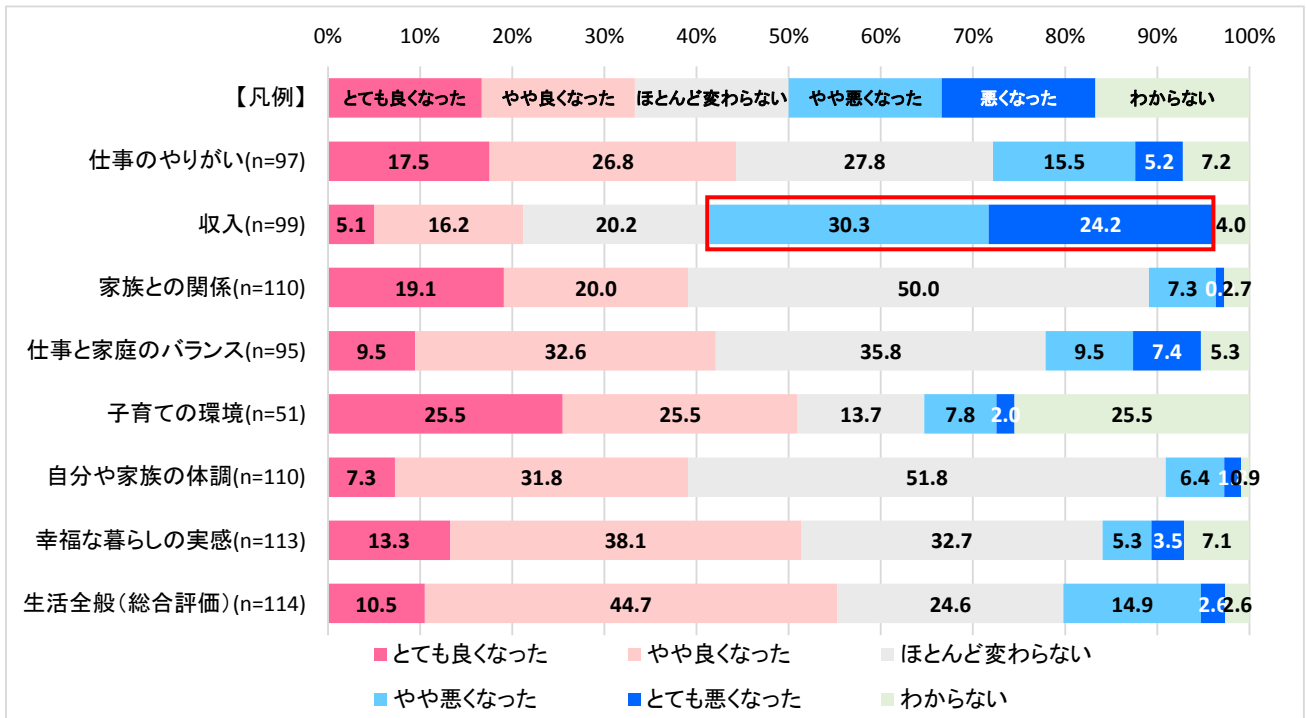


図表 45 Uターン時の心境

	人数	割合(%)
高山市で暮らしたかった(n=65)	65	55.6
出来れば戻りたくなかった(n=26)	26	22.2
住む地域にこだわりはない(n=26)	26	22.2
合計	117	100.0



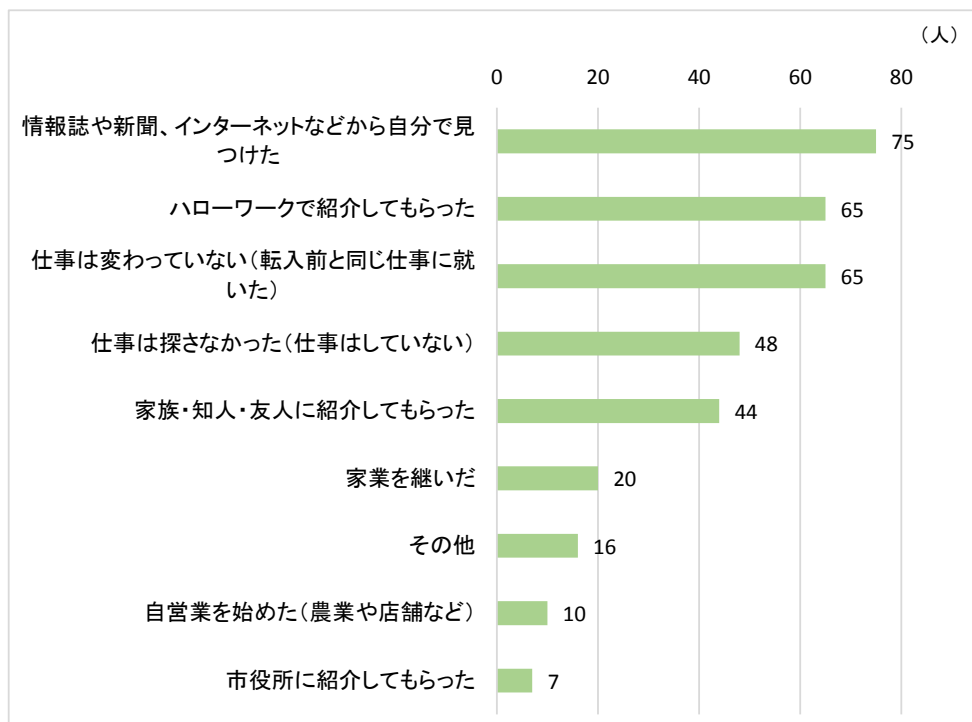
図表 46 生活の変化【Uターン者】



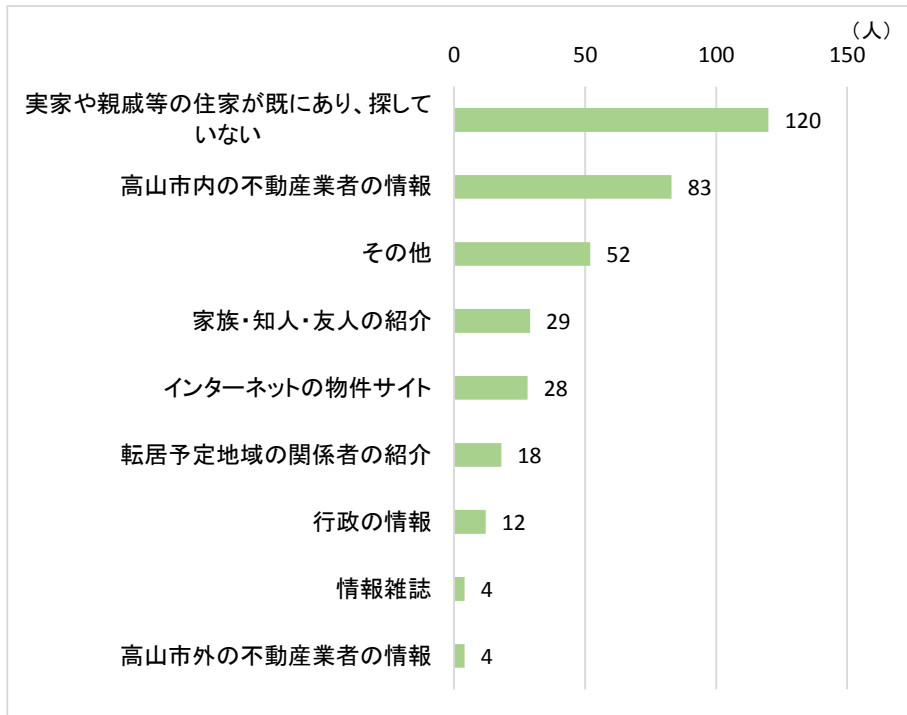
#### (4) 仕事・住居の見つけ方

- 仕事を見つけた方法は「自分で見つけた」、「ハローワークで紹介」が多くなっている。一方で、「仕事は変わっていない」とする回答も多くあげられている。
- 住宅を見つけた方法は「既に家族や親戚の家があり探していない」が最多、次いで「高山市内の不動産業者の情報」と回答している。
- I ターン者の移住を検討する際に心配だったことは、「高山市に家族・知人・友人がいなかったこと」、「自分や家族が地域にうまく溶け込めるか不安だったこと」が多くあげられている。生活やコミュニティに関して不安を感じていることがわかる。
- U ターン者の移住を検討する際に心配だったことは、「転職することにより収入が減ること」、「高山市や近隣地域にやりたい仕事や職種が少なかったこと」が多くあげられている。仕事面での不安が強い傾向である。
- 移住にあたり行政に期待する取り組み・支援としては、「特になし」が最も多い。高山市を選んで移住してきた回答者が少ないことが、移住施策への期待が薄い背景にあるとうかがえる。

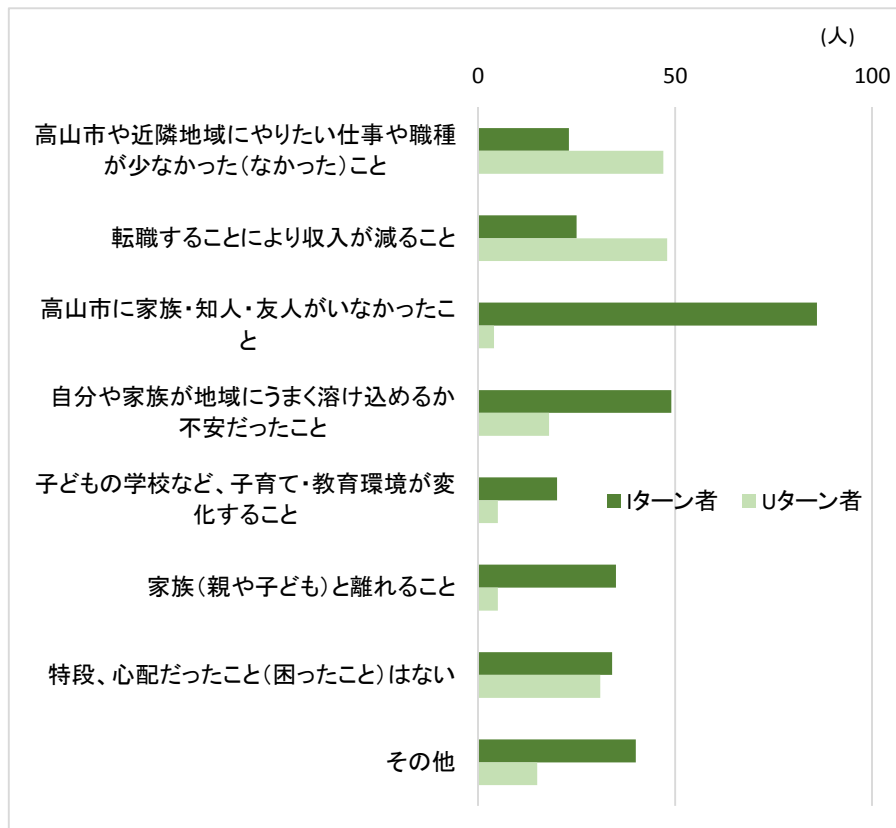
図表 47 仕事を見つけた方法【複数回答】



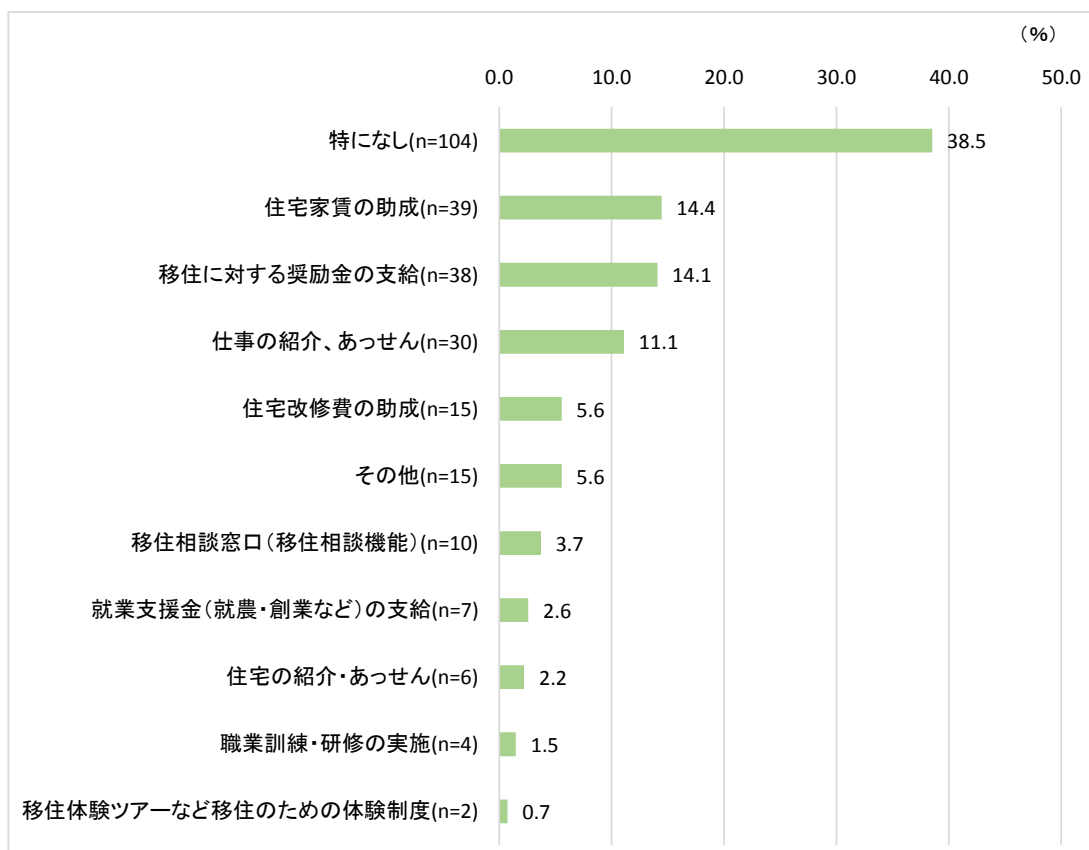
図表 48 住宅を見つけた方法【複数回答】



図表 49 Iターン者・Uターン者別 転居にあたり心配だったこと【複数回答】



図表 50 行政に期待する取り組み・支援



## (5) 地域・暮らしについて

- 高山市への愛着に関しては、Iターン者よりUターン者の方がより強く愛着を感じていることがわかる。
- 移住者の迎え方については、Uターン者がIターン者を上回って、「あたたかく迎える地域」と回答している。Iターン者は「そう感じなかった」、「あまりそう感じなかった」が約3割で、Iターン者とUターン者で認識に相違が生じていることがわかる。
- 暮らしやすさについては、Uターン者は暮らしやすいと感じている傾向が強い。Iターン者は約37%が暮らしにくいと回答している。
- 定住意向としては、Uターン者は約6割が「今後も住み続けたい」としている一方、Iターン者は、定住希望者よりも、市外への転出希望が多くなっている。

図表 51 高山市への愛着

	とても愛着を感じる	愛着を感じる	あまり感じない	愛着を感じない	わからない	合計	回答者数
高山市外出身で転入(Iターン)	10.2%	45.2%	21.1%	11.4%	12.0%	100.0%	166
市内出身で高山市外へ転出後戻ってきた(Uターン)	34.2%	46.7%	11.7%	1.7%	5.8%	100.0%	120
その他	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	100.0%	7
全体	20.5%	45.7%	17.1%	7.5%	9.2%	100.0%	293

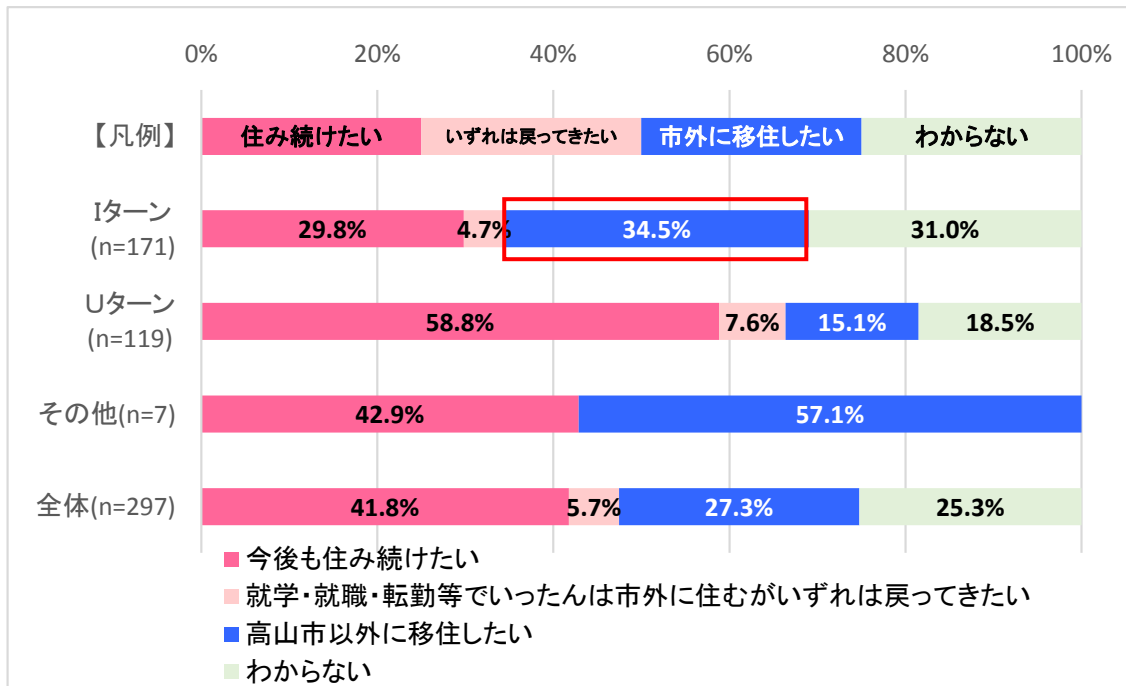
図表 52 移住者をあたたかく迎える地域か

	そう感じた	ややそう感じた	あまりそう感じなかった	そうは感じなかった	わからない	合計	回答者数
高山市外出身で転入(Iターン)	22.0%	31.0%	16.7%	13.7%	16.7%	100.0%	168
市内出身で高山市外へ転出後戻ってきた(Uターン)	28.6%	26.9%	12.6%	7.6%	24.4%	100.0%	119
その他	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%	6
全体	25.6%	29.0%	15.0%	10.9%	19.5%	100.0%	293

図表 53 高山市は暮らしやすい地域か

	そう思う	ややそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	わからない	合計	回答者数
高山市外出身で転入(Iターン)	13.9%	41.6%	20.5%	16.3%	7.8%	100.0%	166
市内出身で高山市外へ転出後戻ってきた(Uターン)	25.0%	47.5%	15.8%	8.3%	3.3%	100.0%	120
その他	14.3%	42.9%	14.3%	28.6%	0.0%	100.0%	7
全体	18.4%	44.0%	18.4%	13.3%	5.8%	100.0%	293

図表 54 高山市での定住意向



## (6) 移住者増加に向けて（自由記述より抜粋）

図表 55 移住増加に向けて PR した方がよいこと

- 子育て環境。医療費負担など大変助かっている。
- 景観や自然環境
- 首都圏や周辺地域へと、意外とアクセスがよいことをもっと PR した方がよい。
- 観光地でもあり、外国人もよく訪れるので英語を使った仕事ができる。
- 一人ひとりが転入者に優しく、よそ者扱いせず温かく迎えてくれる。

図表 56 移住増加に向けて取組んだ方がよいこと

- 若い人が働ける場。適切な賃金がないと、高山市に転入しないと思う。
- Iターン者よりもUターン者を増やす取り組みに力を入れるべき。
- 自然豊かであるが、それだけでは若い人は住まないと思う。どの年代にも住みやすい環境づくり。買い物ができる場所を整備するなど。
- できれば、専門学校や大学があると、若い人が流出せずにとどまってくれるのではないかな。
- 地域の人達が転入者にあまり好意的ではないと感じた。地域や生活を維持するのに、今後移住者も必要であることを認識してもらいたい。
- 中心市街でも空き家が目立ち、廃れている印象を与えてしまう。空き家対策が必要。
- 古民家などを改修し、若者の住居などに活用してほしい。



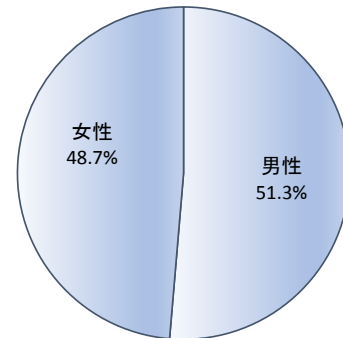
## 4. 高校生アンケート調査結果

### (1) 回答者の属性

- 回答者の居住経験は「15年以上」が約8割となっている。
- 進路希望については、約7割が「進学」を希望している。
- 就職・進学の希望地域は、「飛騨圏域」が23.6%、「愛知県」が28.2%、「東京都」が9.4%、「その他県外」が12.6%となっている。

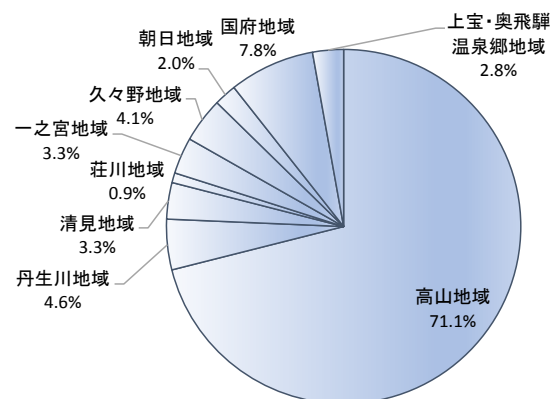
図表 57 性別

	人数	割合(%)
男性	401	51.3
女性	380	48.7
合計	781	100.0



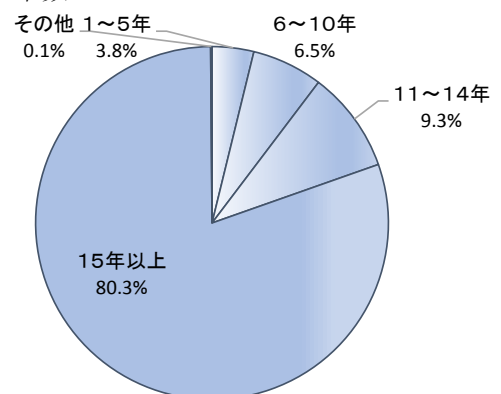
図表 58 居住地域

	人数	割合(%)
高山地域	555	71.1
丹生川地域	36	4.6
清見地域	26	3.3
荘川地域	7	0.9
一之宮地域	26	3.3
久々野地域	32	4.1
朝日地域	16	2.0
国府地域	61	7.8
上宝・奥飛騨温泉郷地域	22	2.8
合計	781	100.0



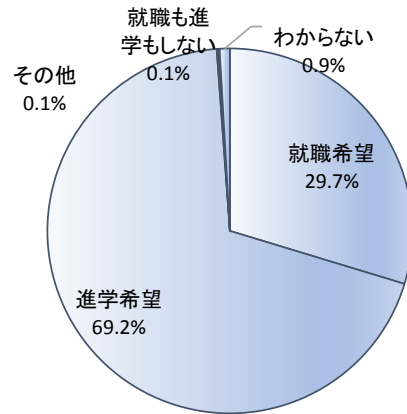
図表 59 現在の地域での居住年数

	人数	割合(%)
1～5年	30	3.8
6～10年	51	6.5
11～14年	73	9.3
15年以上	630	80.3
その他	1	0.1
合計	785	100.0



図表 60 進路希望状況

	人数	割合(%)
就職希望	231	29.7
進学希望	538	69.2
就職も進学もしない	1	0.1
その他	1	0.1
わからない	7	0.9
合計	778	100.0

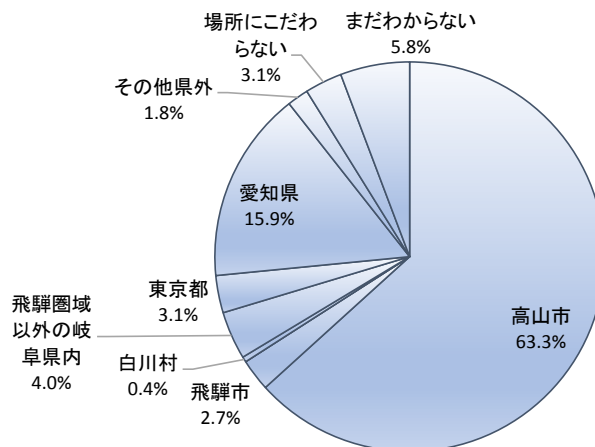


## (2) 就職希望者の進路について【就職希望者】

- 就職希望者の希望する就職地域は、「高山市」が63.3%で最も多い。
- 就職希望地域を飛騨圏域以外と回答した理由としては、「働きたい場所がない」が最も多く33.3%、次いで「特に理由はない」が29.0%となっている。
- 飛騨圏域へ戻る意向は、「あまり戻るつもりがない」が36.6%、「戻ってきたい」、「いずれ戻りたい」が53.5%となっている。

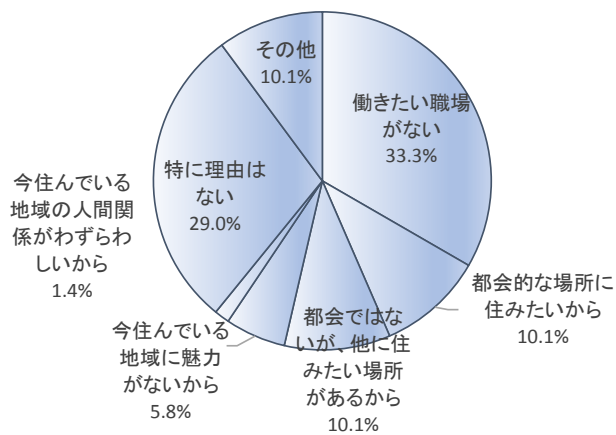
図表 61 就職希望地域

	人数	割合(%)
高山市	143	63.3
飛騨市	6	2.7
下呂市	0	0.0
白川村	1	0.4
飛騨圏域以外の 岐阜県内	9	4.0
東京都	7	3.1
愛知県	36	15.9
その他県外	4	1.8
場所にこだわら ない	7	3.1
まだわからない	13	5.8
合計	226	100.0



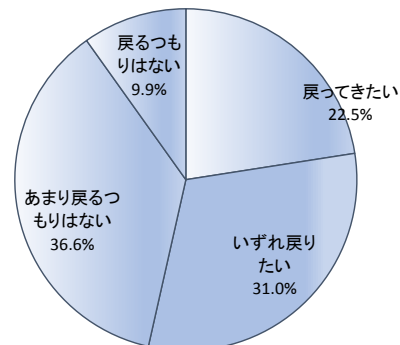
図表 62 飛騨圏域以外に就職したい理由【飛騨圏域以外を選択した者】

	人数	割合(%)
働きたい職場がない	23	33.3
都会的な場所に住みたいから	7	10.1
都会ではないが、他に住みたい場所があるから	7	10.1
今住んでいる地域に魅力がないから	4	5.8
今住んでいる地域の間関係がわずらわしいから	1	1.4
特に理由はない	20	29.0
その他	7	10.1
合計	69	100.0



図表 63 飛騨圏域に戻る意向【飛騨圏域以外を選択した者】

	人数	割合(%)
戻ってきたい	16	22.5
いずれ戻りたい	22	31.0
あまり戻るつもりはない	26	36.6
戻るつもりはない	7	9.9
合計	71	100.0

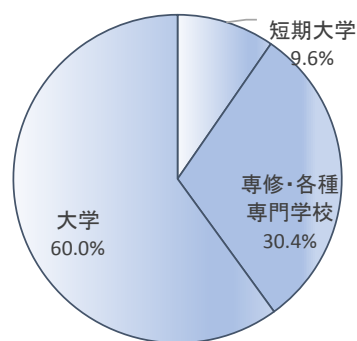


### (3) 進学希望者の進路について【進学希望者】

- 希望する進学先は、60%が「大学」と回答している。
- 進学先の希望地域としては、「愛知県」が 33.5%、「その他県外」17.3%、「東京都」12.2%、「飛騨圏域」5.3%となっている。
- 卒業後の就職希望地域としては、「まだわからない」が 34.3%、「高山市」28.6%、「愛知県」10.2%となっている。
- 進学先別でみると、短期大学や専門学校は「高山市」と回答する割合が高い。大学は「高山市」も3割ほどあるが、「場所にこだわらない」とする回答も2割程度あり、高山市以外に就職する可能性もある。

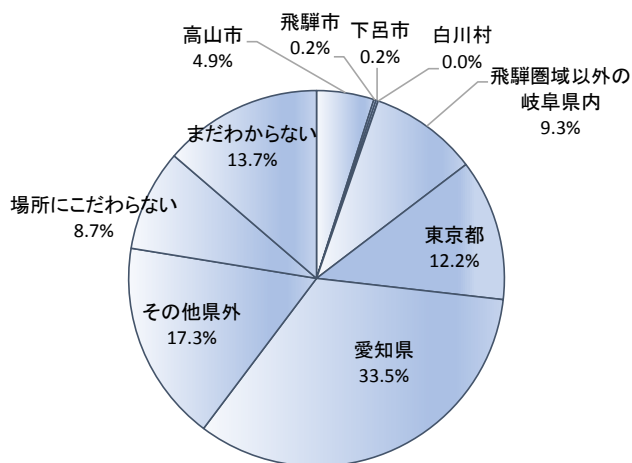
図表 64 希望進学先

	人数	割合(%)
短期大学	51	9.6
専修・各種専門学校	161	30.4
大学	318	60.0
合計	530	100.0



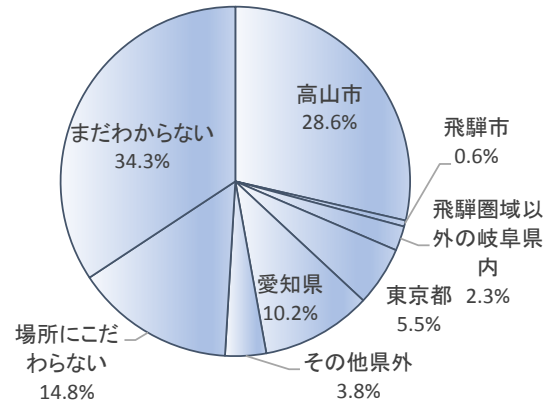
図表 65 進学先の希望地域

	人数	割合(%)
高山市	26	4.9
飛騨市	1	0.2
下呂市	1	0.2
白川村	0	0.0
飛騨圏域以外の岐阜県内	49	9.3
東京都	64	12.2
愛知県	176	33.5
その他県外	91	17.3
場所にこだわらない	46	8.7
まだわからない	72	13.7
合計	526	100.0



図表 66 進学先を卒業した後の就職希望地域

	人数	割合(%)
高山市	151	28.6
飛騨市	3	0.6
飛騨圏域以外の岐阜県内	12	2.3
東京都	29	5.5
愛知県	54	10.2
その他県外	20	3.8
場所にこだわらない	78	14.8
まだわからない	181	34.3
合計	528	100.0



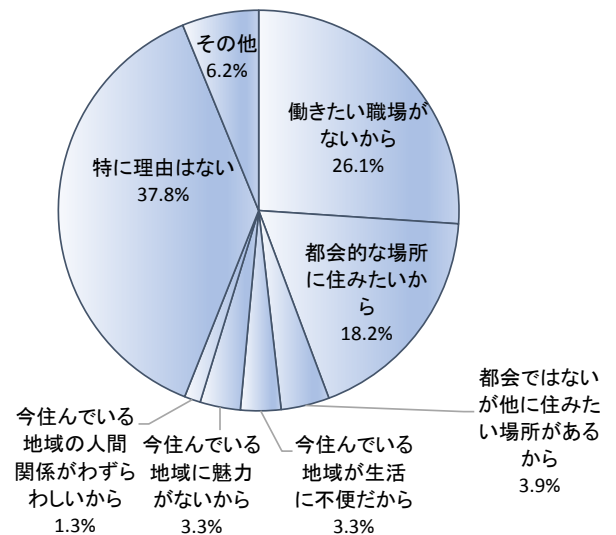
【進学希望学校別 卒業した後の就職希望地域】

	短期大学	専修・各種専門学校	大学	全体(%)
高山市	43.1%	24.4%	28.3%	28.5%
飛騨市	2.0%	1.3%	0.0%	0.6%
飛騨圏域以外の岐阜県内	7.8%	1.9%	1.6%	2.3%
東京都	0.0%	9.4%	4.4%	5.5%
愛知県	11.8%	20.0%	5.1%	10.3%
その他県外	3.9%	5.0%	3.2%	3.8%
場所にこだわらない	3.9%	5.6%	21.3%	14.8%
まだわからない	27.5%	32.5%	36.2%	34.2%
回答者数	51	160	315	526

- 卒業後の就職希望地域を飛騨圏域外を選択した理由としては、「特に理由がない」が37.8%で最多、次いで「働きたい場所がない」が26.1%、「都会的な場所に住みたい」が18.2%となっている。高山市や飛騨圏域を積極的に選ぶ理由がないことがうかがえる。
- 飛騨圏域へ戻る意向としては、「いずれ戻りたい」が約半数となっている。「戻るつもりはない」、「あまり戻るつもりはない」とする回答も約3割あげられている。

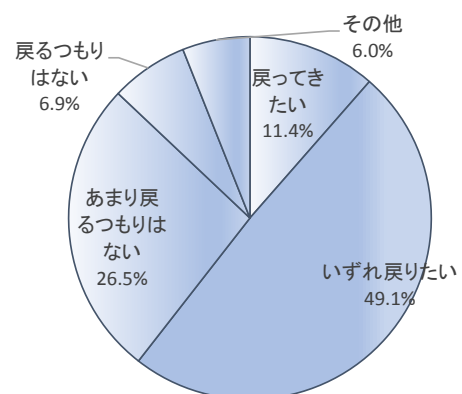
図表 67 飛騨圏域以外に就職したい理由【飛騨圏域以外を選択した者】

	人数	割合(%)
働きたい職場がないから	80	26.1
都会的な場所に住みたいから	56	18.2
都会ではないが他に住みたい場所があるから	12	3.9
今住んでいる地域が生活に不便だから	10	3.3
今住んでいる地域に魅力がないから	10	3.3
今住んでいる地域の間人間関係がわずらわしいから	4	1.3
特に理由はない	116	37.8
その他	19	6.2
合計	307	100.0



図表 68 飛騨圏域へ戻る意向【飛騨圏域以外を選択した者】

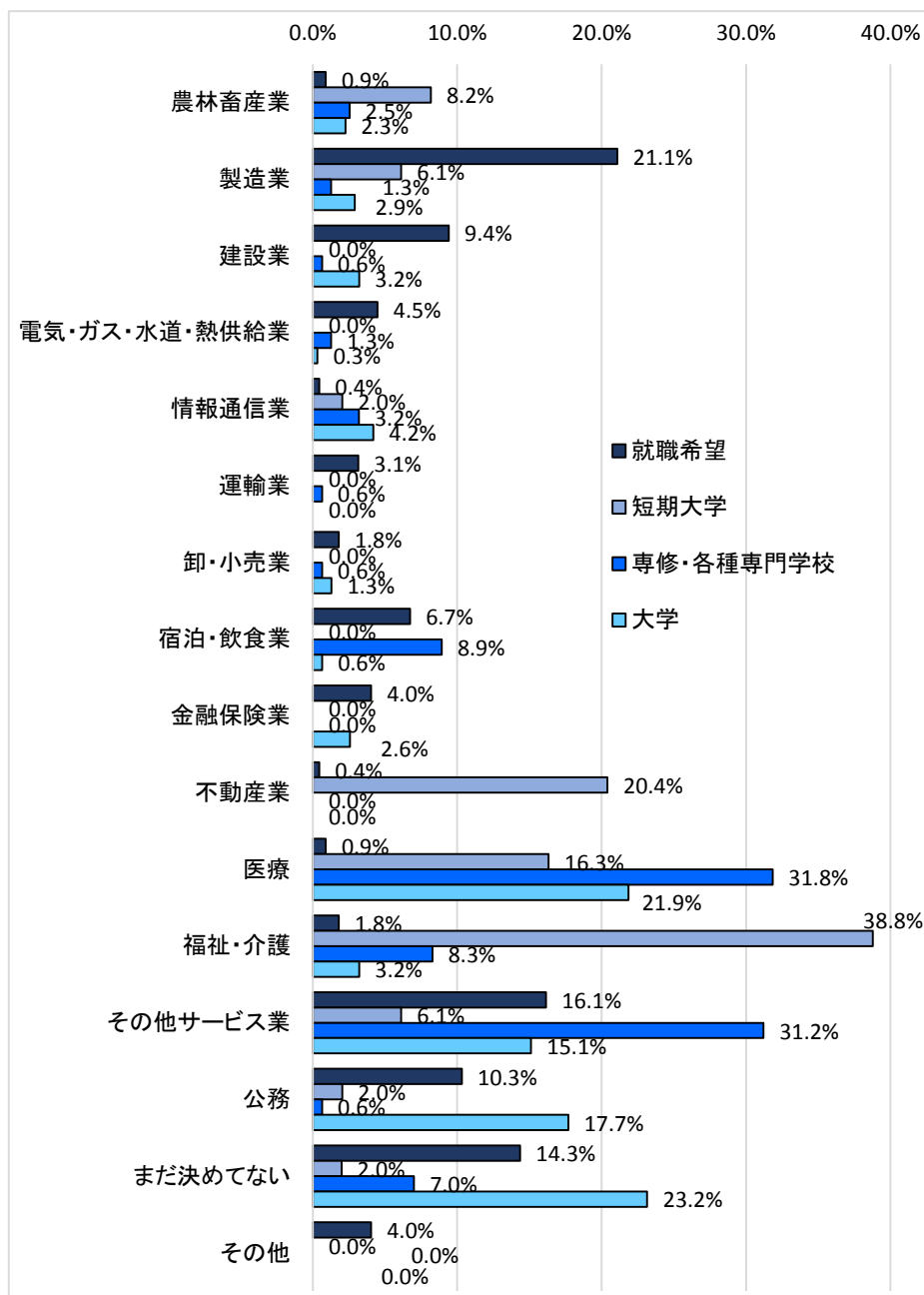
	人数	割合(%)
戻ってきたい	38	11.4
いずれ戻りたい	163	49.1
あまり戻るつもりはない	88	26.5
戻るつもりはない	23	6.9
その他	20	6.0
合計	332	100.0



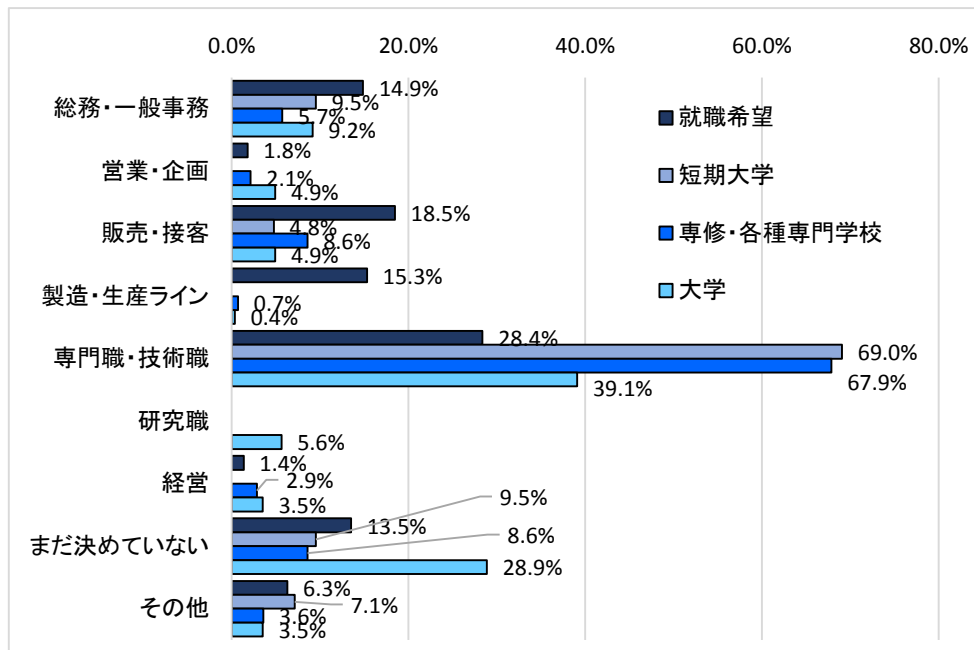
#### (4) 仕事や働き方について

- 将来就きたい仕事の業種を希望する進路別にみると、就職希望者では「製造業」が最も多く21.1%、次いで「その他サービス業」となっている。
- 進学希望者では、短期大学は「福祉・介護」が38.8%で最多、専門学校は「医療」31.8%で最多、大学は「まだ決めていない」が23.2%で最多となっている。
- 将来やりたい職種は、「専門職・技術職」が最も多く、就職希望・進学希望ともに同じ傾向である。

図表 69 将来やりたい仕事の業種【就職・進学希望別】



図表 70 将来やりたい仕事の職種【就職・進学希望別】

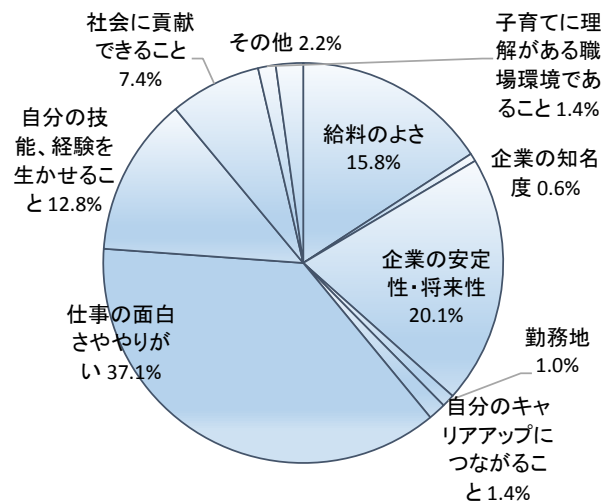




- 仕事を選ぶ上で重視することは、「仕事の面白さややりがい」が 37.1%で最多となっている。次いで「企業の安定性・将来性」が 20.1%、「給料のよさ」が 15.8%と続いている。
- 住んでいる地域の会社や仕事の認知としては、「まったく知らない」、「知らない」が 54.3%と半数を超えている。就職希望者では、「とても知っている」、「知っている」が 53.1%、進学希望者では 42.9%と、差が生じていることがわかる。

図表 71 仕事を選ぶ上で重視すること

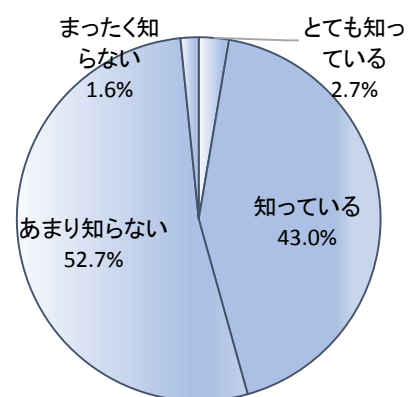
	人数	割合(%)
給料のよさ	122	15.8
企業の知名度	5	0.6
企業の安定性・将来性	155	20.1
勤務地	8	1.0
自分のキャリアアップにつながる事	11	1.4
仕事の面白さややりがい	286	37.1
自分の技能、経験を生かせること	99	12.8
社会に貢献できること	57	7.4
子育てに理解がある職場環境であること	11	1.4
その他	17	2.2
合計	771	100.0



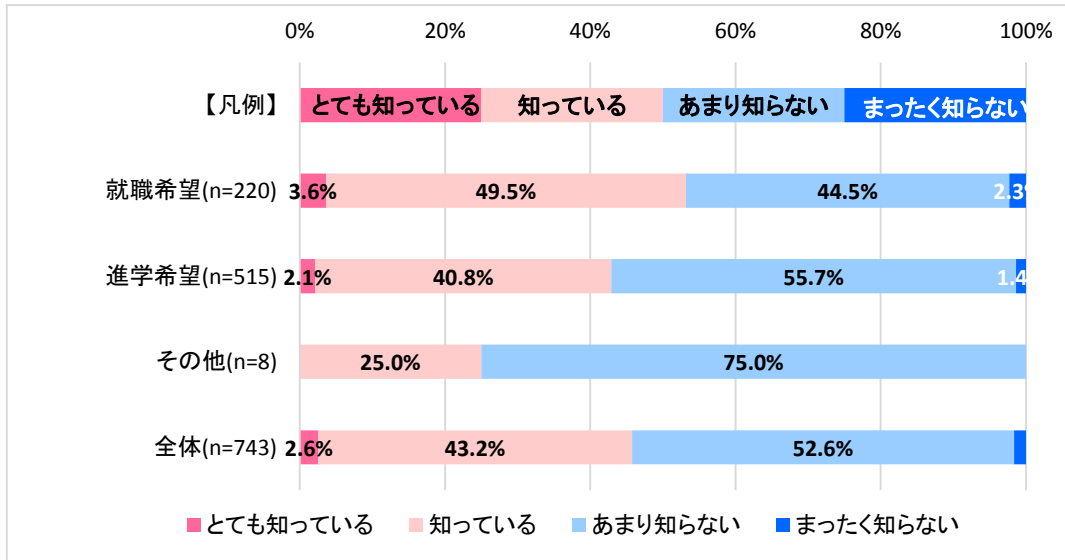
図表 72 住んでいる地域の会社や仕事についての認知

【全体】

	人数	割合(%)
とても知っている	20	2.7
知っている	322	43.0
あまり知らない	395	52.7
まったく知らない	12	1.6
合計	749	100.0



【希望進路別】



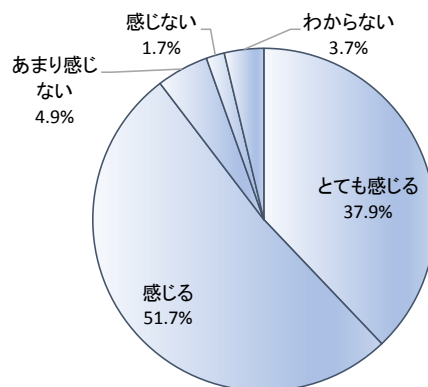
## (5) 地域や暮らしについて

- 地域への愛着については、「とても感じる」、「感じる」が約9割を占めている。
- 居住地域別でみると、丹生川地域は「とても感じる」が半数近くになっている。荘川地域では「感じる」とする回答が70%近くだが、「とても感じる」は14%程で、愛着の度合いは他地域に比べて少し薄い傾向である。

図表 73 地域への愛着

【全体】

	人数	割合(%)
とても感じる	285	37.9
感じる	389	51.7
あまり感じない	37	4.9
感じない	13	1.7
わからない	28	3.7
合計	752	100.0



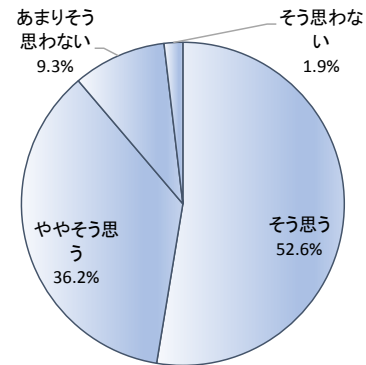
【居住地域別】

	とても感じる	感じる	あまり感じない	感じない	わからない	回答者数
高山地域	38.8%	50.5%	5.1%	1.3%	4.3%	529
丹生川地域	48.6%	34.3%	11.4%	5.7%	0.0%	35
清見地域	30.8%	65.4%	0.0%	0.0%	3.8%	26
荘川地域	14.3%	71.4%	0.0%	0.0%	14.3%	7
一之宮地域	34.6%	50.0%	3.8%	7.7%	3.8%	26
久々野地域	43.3%	53.3%	3.3%	0.0%	0.0%	30
朝日地域	25.0%	68.8%	0.0%	0.0%	6.3%	16
国府地域	31.0%	58.6%	5.2%	3.4%	1.7%	58
上宝・奥飛驒温泉郷地域	33.3%	61.9%	4.8%	0.0%	0.0%	21
全体	37.7%	51.9%	4.9%	1.7%	3.7%	748

- 地域の住みやすさについては、「そう思う」、「ややそう思う」が 88.8%となっている。
- 居住地域別にみると、国府地域では「そう思う」とする回答が約 62.1%で、全体よりも高い割合となっている。朝日地域では「そう思う」よりは「ややそう思う」の割合が全体や他地域と比較すると高くなっている。

図表 74 住みやすい地域か  
【全体】

	人数	割合 (%)
そう思う	394	52.6
ややそう思う	271	36.2
あまりそう思わない	70	9.3
そう思わない	14	1.9
合計	749	100.0



【居住地域別】

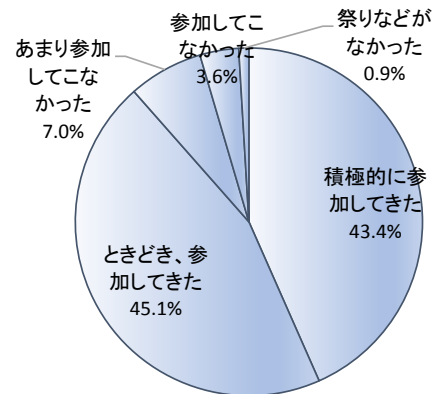
	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	回答者数
高山地域	54.1%	37.8%	7.0%	1.1%	527
丹生川地域	51.4%	28.6%	14.3%	5.7%	35
清見地域	38.5%	42.3%	11.5%	7.7%	26
荘川地域	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	7
一之宮地域	42.3%	42.3%	7.7%	7.7%	26
久々野地域	44.8%	27.6%	24.1%	3.4%	29
朝日地域	25.0%	43.8%	25.0%	6.3%	16
国府地域	62.1%	27.6%	10.3%	0.0%	58
上宝・奥飛騨温泉郷地域	42.9%	28.6%	28.6%	0.0%	21
全体	52.3%	36.4%	9.4%	1.9%	745

- 地域の祭りや地域活動への参加状況は、「積極的に参加してきた」が 43.4%、「ときどき、参加してきた」が 45.1%となっている。
- 居住地域別でみると、一之宮、久々野、国府、上宝・奥飛驒温泉郷地域がより積極的に参加している状況がうかがえる。

図表 75 地域のお祭りや地域活動への参加状況

【全体】

	人数	割合(%)
積極的に参加してきた	324	43.4
ときどき、参加してきた	337	45.1
あまり参加してこなかった	52	7.0
参加してこなかった	27	3.6
祭りなどがなかった	7	0.9
合計	747	100.0



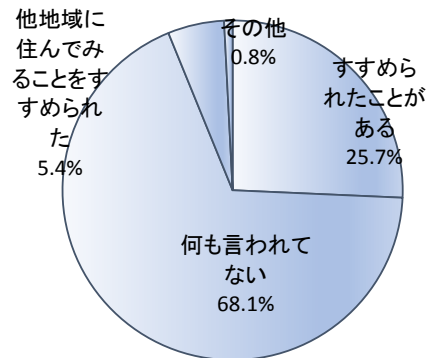
【居住地域別】

	積極的に参加してきた	ときどき、参加してきた	あまり参加してこなかった	参加してこなかった	祭りなどがなかった	回答者数
高山地域	35.4%	49.9%	8.4%	5.1%	1.1%	525
丹生川地域	42.9%	54.3%	2.9%	0.0%	0.0%	35
清見地域	56.0%	44.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25
荘川地域	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	7
一之宮地域	80.8%	11.5%	7.7%	0.0%	0.0%	26
久々野地域	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	30
朝日地域	56.3%	37.5%	6.3%	0.0%	0.0%	16
国府地域	65.5%	31.0%	3.4%	0.0%	0.0%	58
上宝・奥飛驒温泉郷地域	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%	0.0%	21
全体	43.5%	45.2%	6.9%	3.6%	0.8%	743

- 将来、今住んでいる地域に住み続けることを親や親戚にすすめられたことがあるかについては、「何も言われていない」が68.1%、「すすめられたことがある」が25.7%となっている。
- 居住地域別でも同様の傾向であることがわかる。

図表 76 将来住み続けることを親や親戚からすすめられたことがあるか  
【全体】

	人数	割合(%)
すすめられたことがある	192	25.7
何も言われてない	509	68.1
他地域に住んでみることをすすめられた	40	5.4
その他	6	0.8
合計	747	100.0



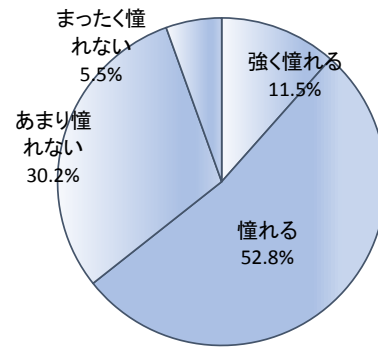
【居住地域別】

	すすめられたことがある	何も言われてない	他地域に住むことをすすめられた	その他	回答者数
高山地域	25.6%	68.7%	4.7%	0.9%	527
丹生川地域	29.4%	58.8%	11.8%	0.0%	34
清見地域	7.7%	84.6%	3.8%	3.8%	26
荘川地域	0.0%	85.7%	14.3%	0.0%	7
一之宮地域	34.6%	53.8%	11.5%	0.0%	26
久々野地域	20.7%	72.4%	6.9%	0.0%	29
朝日地域	18.8%	81.3%	0.0%	0.0%	16
国府地域	36.2%	60.3%	3.4%	0.0%	58
上宝・奥飛騨温泉郷地域	23.8%	66.7%	9.5%	0.0%	21
全体	25.7%	68.1%	5.4%	0.8%	744

- 都会で暮らすことへの憧れについて、「強く憧れる」、「憧れる」が 64.3%、「まったく憧れない」、「あまり憧れない」が 35.7%となっている。
- 居住地域別でみると、久々野、上宝・奥飛騨温泉郷地が「憧れない」割合が多く、全体の傾向と差がみられる。

図表 77 都会への憧れ  
【全体、就職進学希望地域別、居住地域別】

	人数	割合(%)
強く憧れる	86	11.5
憧れる	394	52.8
あまり憧れない	225	30.2
まったく憧れない	41	5.5
合計	746	100.0



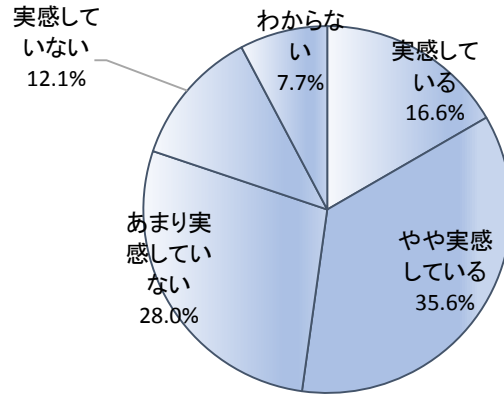
【居住地域別】

	強く憧れる	憧れる	あまり憧れない	まったく憧れない	回答者数
高山地域	12.0%	51.2%	31.8%	5.0%	525
丹生川地域	11.4%	57.1%	25.7%	5.7%	35
清見地域	11.5%	69.2%	15.4%	3.8%	26
荘川地域	14.3%	57.1%	14.3%	14.3%	7
一之宮地域	19.2%	46.2%	26.9%	7.7%	26
久々野地域	10.0%	36.7%	36.7%	16.7%	30
朝日地域	6.7%	66.7%	20.0%	6.7%	15
国府地域	8.6%	65.5%	24.1%	1.7%	58
上宝・奥飛騨温泉郷地域	4.8%	47.6%	38.1%	9.5%	21
全体	11.6%	52.8%	30.1%	5.5%	743

- 生活の中で、人口減少を実感するかについては、約半数が「実感している」、「やや実感している」と回答している。

図表 78 生活の中での人口減少の実感

	人数	割合(%)
実感している	125	16.6
やや実感している	267	35.6
あまり実感していない	210	28.0
実感していない	91	12.1
わからない	58	7.7
合計	751	100.0





図表 79 若い人が“戻ってきたいまち”になるためのアイデア（コメント抜粋）

- 働く場所をもっと増やして欲しい
- 他の県の大学に進学しても高山で就職しやすいように工夫してほしい
- 市内にどんな仕事があるのか紹介し、一度体験や見学できるようにする
- ほかの県よりも給料が低いので平均的にもっと上がるようになればいい
- もっと遊べる場所やイベントを増やして欲しい
- ショッピングモールとか、女性の好みそうなものを作れば、自然と人が集まってきそう
- 上宝は通学にとっても不便なので、バスの本数を増やして欲しい
- 観光だけでなく、ライフラインの充実、待遇の良い会社、老人ホームの設立など、人が住むのに高水準の環境をつくる
- 地域のお祭りをなくさない
- 昔からの伝統など、文化を守る、つづけていく事が大切だと思う。そして自然を大切にす
- いろんな人がふれあえる活動があったらいい
- 大きい公園があったりすると子どもにもいいと思う
- 子どものいる家庭への補助を充実させる
- 自然をよごさないように環境活動に力をいれてほしい
- 近所での関わりあいを密にする、第二の家庭的存在のような、あったかい環境
- 今のまま、のどかな町のままであること
- 都会でしかできない仕事を高山でもできるようにした方が良くと思う
- その町の伝統や個性を大切にしていけると良いと思うし、なつかしいと実感できると良い
- 小さい仕事から大きい仕事までの紹介をもっと積極的にやっていく。例えば農業、公務員、営業、みんながあまり見ないような小さな店などを紹介していくホームページや本
- 地元の人知らない店や物が増えすぎて、よく分からない。人が住むまちとして、もっと安全で、高山らしいまちにしてほしい
- 生活を十分にできる給料をもらえる仕事があり、子どもを育てることに理解や協力があることと、親の老後のサポートがしっかりしていると住み続けたいまちになると思う